



● 救援遅し

神谷君

聖日 四君子寄りだ!!! 直ち
 に警警、守無隊、〇〇部隊に
 急報が飛ぶ。公醫も呼ばねば
 血みどろな光景を想像し
 た助役は、直ぐ使を走らす。
 先づ第一に官三名が駆けつけ
 る。次で兵隊の物々しい姿、静
 な城内は見るみる内に興奮の
 地獄と化する。公醫さんも寝ば
 なをたたき起されたらしい眼
 を充血させて駆けつける。さ



出される血みどろな姿、俯伏
せになつて腰掛の下に這込ん
でる者を救へば、工長らしい
身に敵彈を受けて野にこと

鐵道從事員の士氣を鼓舞せねばなるまい——と私は考へてゐる。

舞臺に列坐して歸路「あじあ」車中にて

土達は匪賊を追つて八方に駆つた。やがて弊官の一人が路から數米離れた草叢の中に



加藤特派員



匪賊の持てるモーゼル1銃

現場へ急行

九月五日、大連鐵道部事故係より「四日二時三〇分頃、四臺子、雞冠山間七六軒九〇〇米附近に於て第三列車の先頭車第三三〇一列車は疾駛の姿勢妨害により機関車の前輪二輪脱線左記従事員死傷せり云々」の報に接し、鐵道部では時を移さず編輯は一名を現場に特派して當時の情況を詳かに調査せしめた。

殉職者の葬儀は九月八日午後三時より安東公會堂に於て佛式により盛大に執行されたが、總代理澤安東、地方事務所長、書記長代理清水次長、字佐美理事代理、該事務長代理

といふ人……

れに頭の低い人で、下の者が、工長に奮ふとこまつちまふなど、よくいつてましたよ。こちらから挨拶する前にならず工長の方から『今日は！』とやられてしまふのです。これでもつて工長の人情が分るぢやありませんか。今度のことで満人の保身がも悲しんでゐるさうですよ。私も長いこと鐵道生活をしてゐますが、あんなヨイ工長ははじめてです。

エ……………○ 本質に氣の持なことをしなしたわ

弔辭

難等洋々たる前途を抱きて中道に殞れられたる固より悲しみて餘りありと雖も其の壯烈なる犠牲的精神は永に我等の以て龜鑑とすべき所社員會一同謹みて諸氏か此の貴き犠牲をして益々光輝あらしめんことを誓ふ翼くば在犬の英靈永に安かならんことを茲に些か蕪談を呈し弔辭と爲す

昭和十一年九月八日

滿鐵社員會

幹事長 石原 重高

紀平重平君

一匪彈を受け—
紀平重平君
重傷す

新城子・新臺子間で

「奉天通報部發」九月十一日十
九時三十分頃、新城市新臺子
間を通過中の三九列車が四三
三軒附近に差掛つた際、東方
より匪賊の銃聲聞えたりと思
ふ。平君は、秘本の「伏せ」の
呼聲を聞くや直に前方に伏し
たが遂に間に會はず、東側積
卸口より飛來せる第二彈、第
三彈に見舞はれ腰部に貫入す
る。(奉天第一聯合會通報部發)

ふ間もなく、第一聲は二輛目の手荷物車乗務員室より車内に飛來し、同所にあつた奉天歸々手本屋太郎君は「スワ誑襲」と知り直に同車内にある係員に「伏せ」と呼掛け、意の如くならず通路に倒れたものである。

奉天驛手坂本勳君は轢を避け、然れども運轉には支障な
無事なるを得たるが、後方驛列車は進行した。乗務員協
便係員室寄の荷物對照を終へて重傷の紀平君を二等車
て通路を係員室へ戻らんとせし座席に運び應急手當を加へ
奉天列車區乗務員荷物方紀平鐵驛着と同時に直に同地



長城方面の近情

矢崎 参謀

□匪賊の最近の状況□

反滿抗日と云つた様な政治的團體は最近殆んど影を落めた。之は厚良の没落及び内部統制に苦しみつゝある支那の現状に鑑み必然の結果であらう。匪賊も最近よほど減少した様ではあるが、民間にはまだ相當数の武器が潜在してゐると思ふ。之も現在の處では住民の自衛上或る程度迄は必要を得ないことであらう。

然し將來は自衛のためなら軍統が根據地にすれば治安の維持上都合がいと思ふ。共産匪と云つても別に共産主義を信奉する匪賊と云ふ意味ではなく、極少數の匪賊の活動が中心となつてゐる。



□長城方面の状況□

現在長城を境にして中立地帯を設け支那側の行動を監視してゐる。監視地帯がある。支那側でも中立的地帯を設けてゐる。中立的地帯を設けてゐる。

故園への歸かしき凱旋の途十三日來連した××旅團矢崎参謀を十四日午後五時折西社員俱樂部に開席中の役員會席上に迎へ座談會を開いた。矢崎参謀は滿洲事變發生前より今日に至る迄引續き滿洲に在任、長城線確保に披瀝の功を樹て、又熱河征戰に、或は遼西方面の掃蕩に勇名を轟かし、或は又關東軍第四課にあつて正確なる滿洲事情の紹介に努むる等文字通り不眠不休の活動をした人である。

『事變以來滿鐵社員の皆様が身を命を賭して軍の作戰行動に協力せられた事、及び舊關社員會から懇篤なる御慰問を受けました事に厚く御禮申し上げます。何も纏つたものは持ち合はして居りませんが皆さんの御意見を承つて内地への土産にしたい、又何か内情に傳へる事でもありませんたらお傳へ致します。』と冒頭して、役員諸氏との間に快く談笑を交し六時辭去。談話の内容を摘記すれば大要左の如きものである。

□熱河方面の民衆□

熱河の民衆は蒙古族と漢民族が大部分を占めてゐるが、どうも仲が悪い。蒙古族は滿洲國の成立を感情的には非常に喜んでゐる。一昨年我軍がハイラルに入城した時も蒙古の兵隊は非常に歓迎した。蒙古人工作は大體うまくいつてゐると云つてもいい。然し僅か五萬人位しかゐらない。多くは遊牧の民で常に土地を變へてゐる漢民族の中にもまだ滿洲國の成立を知らない者が相當ある様である。之等の民族に滿洲國存在の認識を急速に與へる必要があるかの御質問に對しては、之は滿洲國の政治に關することであつて、我々軍人は滿洲國の政治に關係する必要は全然ない。

我々は唯住民の生命財産を保護して安んじてその意に任かせる。我々は唯住民の生命財産を保護して安んじてその意に任かせる。我々は唯住民の生命財産を保護して安んじてその意に任かせる。

□熱河方面の邦人活動狀態□

滿洲の資源開發をあまりに云ひすぎる感はないか。一部の人はまるで泥棒でもする様なことを云つてゐる様だが事實は決してそんなものではない。今後何時どんなことが突發するか分らないと云ふ事を覺悟して充分自重しなければならぬ。滿洲國建設は今漸くその緒についたばかりで我等の理想實現迄には前途尙幾多の曲折を經て貰ひたい。

□外國人の活動狀態□

外國人で奥に行く者は數へる位しかない。ロシア人も白系露人と鐵道従業員位のものである。只宣教師が相當入り込んでゐる。そして之等の宣教師は大抵十年十五年と永住してゐるものばかりだからその勢力は相當根強いものがある。日本軍が匪賊討伐に出動すると匪賊がみんな宣教師の家に逃げ込んでしまつて、日本軍が襲撃する。

轎夫の唄

劉金郭

泰山のあの尼姑は

うられもの

親父や走馬兒！氣まぐれ男

おつかは縣城で夜は鼠泣き

涙かくして仇化粧

泰安の擡轎子は

ひとりもの

親父や歸らぬ 裂票子

おつかは胡子的のおめかけつとめ

おかいこくるみでシヤン

シヤラン

走馬兒は土匪の仲介をなすもの

裂票子は身代金圖還不能により

匪賊に殺される人買のこと

(何れも土語)

□地方の財政狀態□

官吏の増俸、行政機關の増加等によつて各縣共歳出は増加したやうだ。不足分は中央から補助してゐる。最近徵稅機關が整備した結果從來一年間位未納のものは自然に免除される傾向にあつたものが、之を徴稅的に集約するのである。

一般民衆の文化がもつと向上して自發的に納稅する様になればよいが、現在の處では此の強制徵稅に對する評判はあまりよくない様である。後四、五年も経てばいくらかよくなるかも知れない。要するに民衆が早く『法』に慣れることである。

滿鐵の除隊兵採用について□自分の部下の兵隊達に一定の滿洲國を望むのは少し無理ぢやないかと思ふ。然し二年乃至三年の實際に滿洲の生活體驗を持つてゐると云ふことはいいことである。此の點から云へば軍隊が最も理想的な植民學校である。

過般滿鐵で除隊兵の就職希望者を募集された際も、千五百人の除隊兵の中三百人位希望者があつた。今後滿鐵をはじめ鐵路總局、昭和鐵道、撫順炭礦、建設事務所等で新規に人を採用される場合、成るべく之等在滿部隊の除隊兵を優先的に採用して頂きたい。

矢崎参謀は十五日出帆の『うらる丸』にて出發されたが船中より左の如き電報を寄せられた。思ひ出深き滿洲を去るに當り社員會の今後の活動に大なる期待を有する。之を滿鐵に集約するのである。

加賀山君は「線路防衛だ」と答へ、更に首が痛い訴へた。そこへ坂井君と高良君が近づいて来てしめてある襦袢をとってやつた。縛つてあるワイヤーを切らうとすると加賀山君は「腰にベンチがある」と言つた。防寒服の上から外套を着るに、手を後に縛るといふのだから、無理な縛り方である。加賀山君の苦痛は想像以上のものがあつたらう。高良君が加賀山君を横から拘き上げて坂井君が幾重にも縛つてあるワイヤーをベンチで切斷してやつた。昂奮してゐる加賀山君は等閑君に負はれながらも「列車は停つたか」と口走つてゐた。救けられた時は顔や服が砂まみれになつてゐたと云ふ。列車に乗せられて横に寝せられた加賀山君は、事務車掌や列車ボーイによつて介抱され、車掌はワイスキーを持つて来て飲ませたりした。

列車での加賀山君は列車が停つてくればよかつた口走りながら昏々と眠つてゐた。そして途中で「僕は大丈夫だ、許家屯で降りし

向、茲に奇しき終とでも言ふべきは、機關士坂井謹一郎君である。坂井君は昭和七年八月二十一日午前四時近い頃、機關車に乗り安奉線の火車と石橋子の中間で七十餘名を數ふ強力な匪賊の襲撃を受けた際、線路工長、趙機關方等を失ひ、自己は機關室前部のサイドタンクの中に身をひそめてからくも救はれ「死線を越えた」記録を有する人で、加賀山君を救つた。

故に此の種の子弟の育英事業は會社としても大に力を入れて戴くべきものであるが、まづ其の第一着手として、御大典記念奨學規程による留學生の設備に於て、社友會員子弟をば社員子弟と全く同様に取扱はれんことを要請する次第である。



公主嶺・數島高臺

國際列車遭難の憶出

奧地同僚への慰問品を携へて危禍に遭ふ



太田君 松尾君

十一月二十六日の午後八時半頃、西部線の安達を過ぎて三ツ目の驛小高子附近で、匪賊の襲撃を受け一大苦戦をたて、國際列車が轉覆した。

匪賊は青山好の一味五十名餘で、百米に亘つて大釘を抜取つて待受けていたもので、寢臺車等は滅茶苦茶に破壊され現場は阿鼻叫喚の慘狀を呈した。匪賊は頑強に抵抗したが、同列車に乗込んでゐた高波部隊の勇士によつて撃退されたこの國際列車遭難の報は當時新聞の報道したところであるが、當時の遭難者の中に我等の同僚で社會係の松尾君、鐵道工場太田君一の兩君があつた。滿洲に當り我等

にとつてこの遭難も何等かの參考にもならうと記者は松尾君に當時の憶出を聴かせて貰つた。

松尾、太田の兩君は各建設事務所配すべきラヂオ、蓄音機を持つて十一月十三日に出發、羅津、圖們、哈爾濱を終へ、この遭難した國際列車に乗つてゐたのは齊々哈爾濱に向ふ途次だつたのである。天地鳴動といふか、大地震の瞬間といふか、さう言つた時の衝動で言ひ表はせる音響と共に今までまどろみかけてゐた旅客の眠りを一瞬にして狂亂の巷に投げこむと次の瞬間に旅客は野原に投げ出されてゐた。列車は轉覆の瞬間逆立ちしたものであるらしい。松尾君と太田君が乗つてゐた部屋には軍人の丸山中尉と滿洲國の將校それに滿人の商人が一人で同乗五人

救援列車の來るのを待つた。夜明近くなつて轉覆してゐる列車の其處、彼處、それからその附近をさがし廻つたが松尾君達の荷物は何物をも目當らなかつた。着のみ着の儘で助かつた旅の人々等を乗せて救援列車が發つたのは翌日の午後三時であつた。

松尾君は語る。

列車が脱線した結果から見ると私達が乗つてゐた車中の車が一番無残に破壊してゐる様です。高波部隊は後部の三輛にあつたので、その車輛が轉覆しなかつたため幸ひにも直ぐ應援出來ました。長い旅行では、匪賊の襲撃は受けなくても、何時どんな事件が突發せぬとも限りませんからなるべく靴や上着を脱がない方が好いと思ひます。そして必需品も身につけられただけはつけて置く方がよいのでありますまいか、今度の遭難で経験した事ですが負傷した人々は大概眠つてゐた様ですが私はその晩どうしても眠れませんでした。

松尾、太田の兩君は各建設事務所配すべきラヂオ、蓄音機を持つて十一月十三日に出發、羅津、圖們、哈爾濱を終へ、この遭難した國際列車に乗つてゐたのは齊々哈爾濱に向ふ途次だつたのである。天地鳴動といふか、大地震の瞬間といふか、さう言つた時の衝動で言ひ表はせる音響と共に今までまどろみかけてゐた旅客の眠りを一瞬にして狂亂の巷に投げこむと次の瞬間に旅客は野原に投げ出されてゐた。列車は轉覆の瞬間逆立ちしたものであるらしい。松尾君と太田君が乗つてゐた部屋には軍人の丸山中尉と滿洲國の將校それに滿人の商人が一人で同乗五人

高波將軍の傍に馳せつけた兵士

が官姓名を各乗ると、安達から二つ目の驛小高子驛に近い地點だといふ事を報告してゐた。松尾君達はそれによつてやつと何處の附近に居るか解つたのである。

高波部隊からは直に應援隊を求めて六名の隊令が出發され、一方頑強に抵抗する匪賊を擊退に努めたその間にも各所で負傷した旅客や、賊弾を蒙つた兵士の應急手當が施されてゐたが高波部隊の中に旅客の安全を計り、賊を擊退すべく戦つて斃れた山東、尾島の兩勇士があつた。彼等の應援一時間にしてさしも頑強に抵抗した匪賊も陣形を亂されて退却した。

旅客は、その時になつてはじめて安堵した。しかしその安堵と共に――北滿の夜である。寒氣がヒシ／＼と襲ひ、眠さとお腹の空を覺え出した。松尾君達は粉微塵に破壊されてゐる車輛の破片を集めて焚火をした。轉覆した列車の横の野原で七組か八組か焚火を圍んで、寒さと、飢え、眠さと頼りない不安の一夜を過して、ジツと

間島の匪賊

新 村 龍 太

失敗した匪賊立志傳

——俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

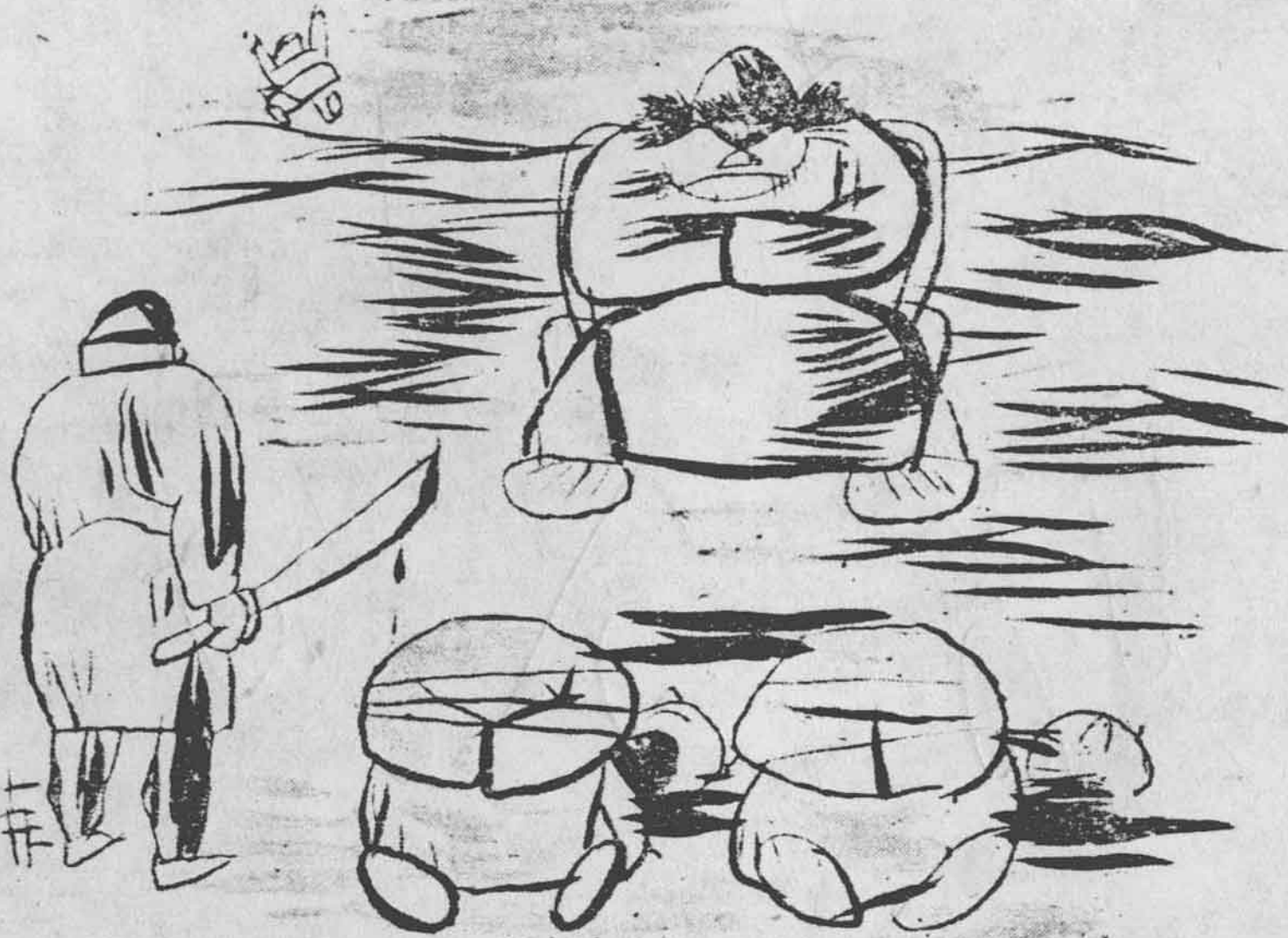
「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を



「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

共匪と馬夫との問答

「俺も今年で、三十七。人間僅か五十年と云へば、もう後十三年しか残つてゐない云ふ勘定だ。それに、かうやつて毎日、毎日、土にまみれて働いてゐても、さう、うだつの上ると云ふ日はなし、あゝ、厭になつちまうなあ。さうだ、一つ匪賊にでもなつてやらうか。」

性來意け者の延吉縣志仁郷石磨洞の薩洲國人農夫、陳略巴（三七）が、雜草の生えてゐる自分の小作地を眺めて、太く短く世を渡る流儀のこんな考を起したのは、丁度昨年の夏頃の事であつた。

それから、十日ばかりした延吉の市街には、匪賊志願者、未來の綠林の英雄を夢見る陳先生が人混みの中をさよらさよらしながら歩いてゐたのである。

さて正業なら兎も角として、御政道の裏道を行く森林のギャング稼業のことである。口入屋に頼んでもある筈もなし、第一うつかり「匪賊になりたい」などと喋らうものなら、忽ち兩手が後に廻る。

「どこか、匪賊に願つてくれないかなあ」と天を仰いで長嘆息しながら、到頭、今年の四月になつてしまつたのである。二丁度その頃、陳略巴は、自然に出来たぶらぶら仲間から、延吉縣の石人嶺に陳略巴と云ふ頭目が歸居してゐると云ふ耳寄りな話を

して馬の代理で受取つてゐる。其
郎官普の話では義金の受領額は一
々其都度徴信録に記入しておいた
が滿洲を逃げ出すときに忘れて來
て終つたといふ。糸をたぐつてそ
れからそれへと探つてみると彼處
にも此處にも大きな穴があいてゐ
る。二千數百萬元が是等の穴から
篩ひ落されて御本尊馬占山の手に
渡つたものが僅か百四十餘萬元に
しかならぬといふのも道理である
此百四十萬元が實際命投げ出し
て戦つてゐる兵士に渡るまでには
尙ほ幾多の穴があるから結局中途
で綺麗薩張り篩ひ落されて終つた
ことであらう。今更救國義金清查
委員會など作つて騒いでみたこと
ろで後の祭りである。

當時馬占山のクライマックス
に在つたとき亡夫の遺産二萬元の
うち一萬五千元をポイント投げ出し
た感激の若い未亡人があつた。馬

の金も國のためになれば幾分亡
夫の靈を慰めることも出来ませ
う。將軍態々御禮にとは恐れ入
ります。

兩人の眼には涙が一杯光つてゐ
た。斯ういふ奇特な志が國家の非
常時を鐘大鼓で宣傳して歩く所謂
愛國屋の懷を肥やしてゐるのであ
る。命投げ出して戦つてゐる兵士
に一文でも渡ると思ふのは知らぬ
が佛である。

凡そ共和國内に定住する人民は皆共和國の國籍を取得する（第五條）國民は宗教、男女、階級、種族、國籍の別なく一律平等なり（第六條）とあり、日本人も露西亞人も華國內に定住するものは其國民である。華東とは一體何れの地域を指すのかと云ふと、第二條及第三條によれば、華東共和國は假りに中央區吉東區黑龍江東區遼東區的五區に劃分し、中央區は元吉林省省東

央に軍政院を設け參謀、陸軍、海軍、空軍の四部に分ち院長は總裁兼任である（第二十八條）。政治は「華東共和黨」の一黨專制で國家の重要官員は皆其黨員でなければならぬといふところは今の南京政府の眞似のやうであるが（第十七條）、政見を異にする政黨も意見を陳するを得、絶對に政見の反對なる政黨には一區域を與へて一年間其施政を試みさせ、成績が擧がればそれを採り、成績が擧がらなかつたら活動を停止せしむ（第二

憂鬱な支那人の心持を幾分明るくさせた。ところが南京政府外交部では大人げもなくこんなナンセンスの材料を國際間に持出して何か物にしようとしてゐる。即ち新滿洲國が立派に形態を整へ王道樂土を現出しつゝある事實を無視することは出来ないといふ一部國際間の正論を反駁せんために、支那

部の東寧、虎林、密山、寶清、寧安、穆稜、の六縣を包括し、吉東區は元吉林省東部の如上六縣を除く十三縣、黑東區は元龍江省東部の十一縣、遼東區は元奉天省東部の八縣及び朝鮮の西北六郡、遼東區は支那が假りに露國に讓與してゐる沿海州であつて中央區は東寧縣の縣城を

十三條)といふ。産業はすべて國營に歸し田地も政府に其私有を護れば政府から一定の給與を以て耕作せしめるが、私有するものには其收入の五割を税金として徴収する。各職員^{カミヤウ}の給與^{キョウギ}は最高年給^{ケイゴウネンギョウ}一千五百元最低百二十元までを五級に分ち病中^{ヤクチュウ}老後^{ロウゴ}も之を給與する。幼^コ兒^ニの養育^{ヤウイク}、病氣^{ヤクキ}の療治^{リョウジ}、葬式^{サウシキ}、各種^{カクシユ}

に勝る理想國が成長しつゝある如く認識不足の外人に宣傳して、架空を以て現實を打消さうと奇想天外の思ひつきで、此諸材料を外交部の所謂「黃表紙」書の第八卷と

る。
の如く、實に滿蒙朝鮮シベリア
に亙る大地域である。どうせ夢な
ら大きな夢をみるがよい。軍事政
治を總攬するものを「總裁」と稱

條（だう）第四十五條（じゅうごじょう）、教育（きよういく）は七歳（しちさい）より十七歳（じゅうしちさい）まで義務（こむ）教育（きよういく）をうけしめ、成績（せいせき）のよきものは相當（きうたう）の給與（きふよ）を以て専心（せんしん）研究（けんきう）せしめるやうになつて居（ゐ）り、其（その）教育（きよういく）の程度（ていど）により國家（こくか）と

恩博士に攜帶せしめたといふ。さて
て支那人の理想に描く「華東共和
國」とは果して何んなものか。其
所謂「約法」によつて一瞥してみ
ぬものをみる法がない。約法は七
章六十條より成つてゐる。其第一
條に「華東共和國は華東人民によ
り民族自治精神に基き共同之を組
成す」とあり、華東人民とは一體

し、各區に區執政をおき、區を十縣に分ち各縣に縣執政をおき、縣を十郷に分ち各郷に郷執政をおく（第二十四條）。又中央政府には總裁の下に教育、工商、理財、外交の四部を設け、各區には各部の司を設け各縣には分司を設ける（第二十七條）。軍事の機關としては中

條（第五十七條）。更に角理想國で
 あるから實行の出来る出来ないは
 問題でない、新奇の制度を羅列し
 た超モダンの國である。こんなタ
 ワイないことでせめてもの氣晴し
 にしてゐる……これも非常時支那
 の姿である。



武士道華やかなりし頃の馬占山

政_二府_二は_二有_二害_二無_二益_二

菱刈隆大將着任

七千萬國民の輿望を擔つて第二
代關東軍司令官、特命全權大使、
關東長官、三位一體の重責に就い
た菱刈隆大將は岡村關東軍參謀副
長以下幕僚、谷大使館參事官、關
原秘書官等に従へ、八月二十二日
午前八時定期船より九時大連
埠頭到着、どよめき返る歡呼裡に

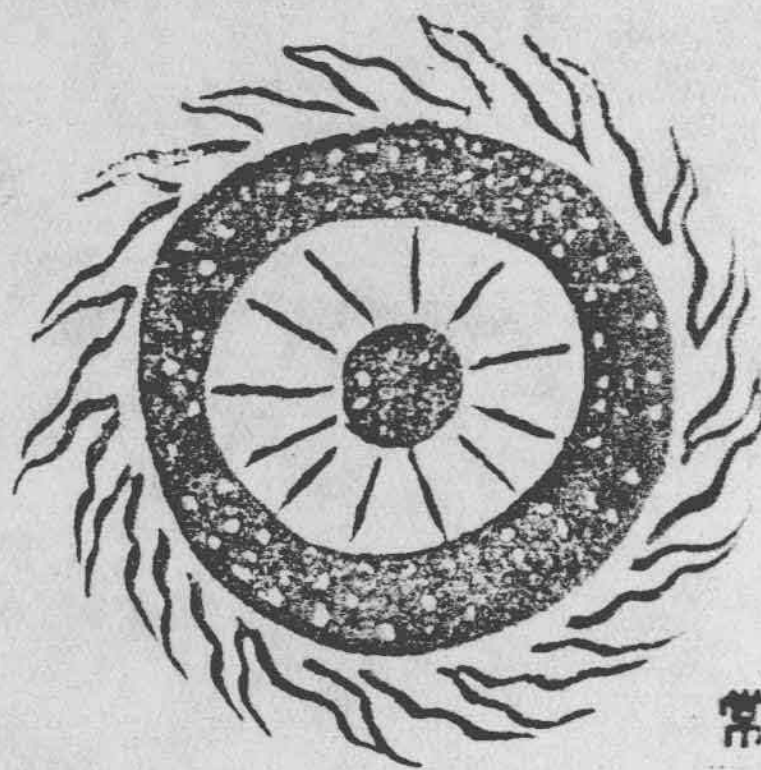


るからに古武士の風貌ある將軍は
一々出迎への官民に舉手の禮を以
て答へ乍ら、埠頭玄關前より直ち
に自動車にて幕僚其の他を從へ旅
順長官々邸に向つた。かくて二十
一日將軍は旅順昭和園に旅大官民



發、一路新京に向ひ同午後八時二
十分、熱狂する官民の歡迎を受け
ながら國都新京着、全權官邸に悠
然たる英姿を現はした。

菱刈大將は上陸に先立ち鶴見事
務官を通じて日滿英三國文を以て
次の如き聲明書を發し日滿永遠の
共存共榮確立に對し中外に所信を
宣明するところがあつた。



常時支那の諸相

今日は世界をあげて非常時に在る。今日のフランスは非常時
フランスであり、今日のドイツは非常時ドイツであり、今日の
イギリスは非常時イギリスであり、今日のアメリカは非常時ア
メリカであり、今日の日本は非常時日本である。御多聞に洩れ
ず今日の支那も正に非常時支那である。此非常時支那に起つた
支那らしい事柄を二三拾つて非常時支那の眞面目を寫してみる

救國義金の行方

非常時支那の救國將軍と仰がれ
て、「馬占山」の名は廣告にまで

利用さるゝほどに一時支那全國に
大もてどあつた。正直な青年學生
の感激をうけ其奔走呼號
によつて商店の小僧や車
夫馬丁にまで「馬占山」

の三字は腦裏深く刻まれ
た。其感激の結晶が驚く
勿れ二千數百萬圓といふ
莫大な義金となつて「支
那はまだ亡びぬ、此國民
の愛國心の表現をみよ」
と支那人に萬丈の氣概を
吐かせたものである。と
ころが日滿軍の一撃に救
國の大業成らず着のみ着
のまゝ露境に逃げ込み、
歐洲を遍歴し先頃上海に
歸來した馬占山は、何處

不肖隆大命を拜し故武藤元帥の後を享け茲に親しく滿洲の地を踏むに方り廣く全滿の人士に告
ぐ、惟うに滿洲の建國成りて既に一年有半、創業の鴻圖正に緒に就き、王道立國の基礎益々鞏固を
加へ極東の黎明愈々瞭にして難て全亞に及ばんとするの兆あり。帝國に承認を斷行し日滿議定書
に依りて兩國永遠不可分の關係を律し、特に帝國は本方針貫徹の爲國運を賭せんとするの危難をも
敢て回避することなく遂に國際聯盟と袂を分ち、畏くも詔勅の渙發を見るに至りたるは今尙天下の
耳に新なる所なり。滿洲國亦深く帝國の態度と故元帥の至誠とに信倚し、共に相俟ちて兩國の關係
は正に豫期の如き進展を見つゝあり。本職の來任する固より帝國の方針を體し國防を鞏固し治守を
完成し併せて特に滿洲國家の堅實なる發達と日滿共存の永遠なる確立とに萬幅の支援と協力とを捧
げんとするに在り。其の施策經綸の大綱に至りては盡く前任武藤元帥の行へる所を踏襲すべし、全
滿の人士宜しく意を安んじ故元帥への所懐と信頼とを直に移して以て本職に致さるべく、本職亦勇
往以て大任の爲に粉骨碎身し敢て重責を辱むること無きを期せんとす。茲に聲明す。

昭和八年八月二十日

關東軍司令官 特命全權大使 菱刈隆
關東長官 陸軍大將

輝かしく黎明の滿洲に第一步を印
した。この日夜來の雨雲なごりな
く霽れ、水も空も紺碧に澄み、折
からの旭光に照り映えて大將の着
任を迎へた。埠頭は小川大連市長
羅振玉氏、安藤要塞司令官、滿鐵
正副總裁首め官民多數の出迎へに
埋まつた。陽氣豪快恬然として見

を招いて盛大
なる披露宴を
張り、二十二
日よく晴
れの新京入り
をなす事とな
り大連神社、
忠靈塔參拜後

軍に負けては敗れたが、
何分敵には優秀な武器があり兵
士の給與が足りてゐるに反し、
我軍は殆んど役立たぬ錆ついた
武器なる上に政府の給與も滞り
がちで遂に不戰をとつたことは
返すくも遺憾の極みである。
たゞ此際全國各界から援援して
頂いたことは衷心感謝する。殊
に國民の愛國心の結晶たる百四
十萬圓の義金は兵士の士氣を鼓
舞するに充分であつた……
と口走つたのが、果しくも愛
國義金募集の内報を暴露する端緒
であつた。上海ばかりでも前後三
四百萬圓を送つて居り、全國各地
からの通算すれば二千數百萬圓
にもなうと云ふに、馬占山御本
人の手に入つたものが其二十分の
一にも足らぬ百四十萬圓ときいて
は開いた口がふさがらない。それ
が新聞記者の耳に入り問題は俄然
大きくなつた。主として其送金を
引受けた中國銀行爲替係の話では
「銀行では事救國に關するものだ
から爲替料をすべて免除して送金
し其他電報料なども立替へてゐる
之だけの費用でも數千元に上る。
送金額の確數は一寸判らぬが百四
十萬圓どころではないと思ふ」云
々と確實なところは各方面に支障
が出来て云へないらしい。
東北義勇軍後援會では馬占山に
指定の義金は二萬圓餘で悉皆馬占
山に送り東北義勇軍への義金は數
十萬圓になるが之は朱慶瀾を通じ
各義勇軍に渡つた筈だといふが
「數」十萬圓などゝ頗る曖昧であ

「健闘録」を本社一部宛全七十二部贈呈し一行の参考にするところであつた。

満博國防館を飾る

悲壯なる殉職社員遺品

並に事變記念品全く揃ふ

豫て満博國防館に出品のため蒐集中の殉職社員遺品及び事變を語る記念品は各方面の熱誠な後援のもとに續々と到着、定められた出品場所並びにきねまでに蒐集つた。

國防館には殉職社員遺品、事變の記念品の他に殉職警官の遺品が陳列されてある。もの

なかにあつて、血痕のあと生々しく付着した遺品の数々、身軀中に十数箇所の銃弾をうけた制服、血

染の日章旗、数箇の弾丸に見よ！影もなくつた防寒帽に合圖燈、

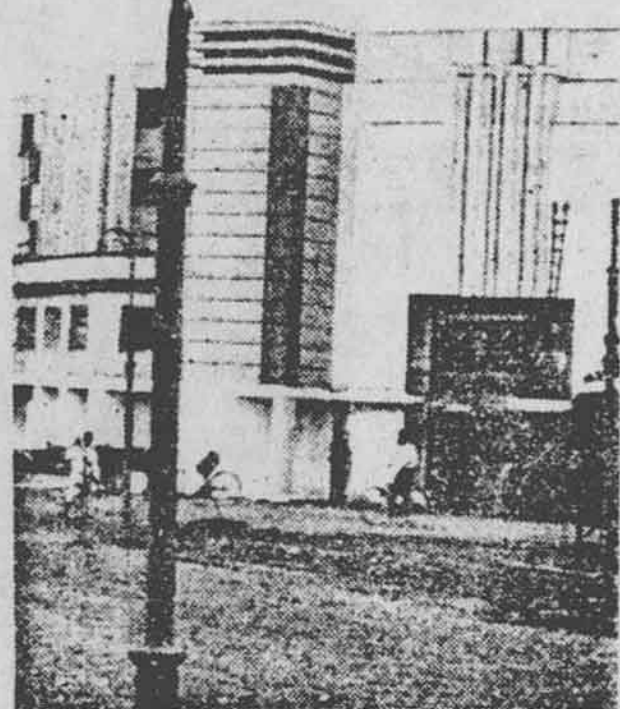
「健闘録」を本社一部宛全七十二部贈呈し一行の参考にするところであつた。

左に出品物区分けを記載してをく。

故外山一男氏

遺品

七年八月十六日午前八時三十分鞍山製鐵所附近、匪賊數十



重大使命を帯びられたる各位の御来館に際し、満博社員は満博の盛衰を以て歡迎申し上げます。満博三萬社員を以て在滿邦人中の一結束をなす社員會が、内外に對し微力を盡す其使命に盡心し來り得ました事は、各位の御覽覧によるもの、此様に際し併せて御覽覧申し上げます。尚滿博社員會は

六年十二月十八日、秋末武義に襲來せる匪賊と戦ひ使命を果して殉職せる際のもの

故王國金氏 手帳に彈痕あり
七年八月廿八日、石橋子驛に匪賊と戦ひ殉職す。

中森實信氏 記念品
六年十一月二十七日軍用列車に乗じ使命を果したる際北寧線白旗堡附近に於て敵彈にて重傷す。

故王國金氏 手帳に彈痕あり
七年八月廿八日、石橋子驛に匪賊と戦ひ殉職す。

名に應戰、使命を果し重傷、殉職

故廣瀨吉盛氏 遺品

八年一月六日東支東部線々路保修作業中敵の敗殘兵に應戰殉職

故中山樹氏 遺品

七年十月二十日、齊克線にて兵匪

一千名に遭ひ防戰奮闘殉職

故古川年定氏 遺品

七年十月二十日 齊克線に於て兵

匪の猛襲を受け應戰奮闘殉職

故松本竹次氏 遺品

八年四月十八日、敦化方面に於て

匪賊數十名の襲撃を受け奮闘殉職

故小林正之氏 遺品(四點)

七年九月二十六日、呼海線に沿ひ

兵匪重圍の中に線路修理中四百名

の匪賊來襲應戰殉職

故柳田佐市氏 遺品

六年十二月十八日、匪賊百名秋末

莊驛に襲撃之を死守防戰中殉職

故佐藤忠氏 遺品

落書及其の模寫壁板の一部なり

六年九月十九日、東支鐵道南部線

一間驛驛にて遭難行方不明となり

し同氏の慘殺を推知せしむる落書

故楊幹臣氏 奮闘記念品

七年八月二十一日、石橋子驛附近

に於て職務中匪賊數十名來襲、作

業用シヨベルを以て敢然應戰に努

め殉職す。

故呂芳林氏 遺品

六年十二月二十二日、九十名の匪

賊高麗門驛來襲の際防戰使命を果

し殉職す。

故林公一氏 遺品

七年八月二十一日、職務遂行中匪

賊數十名に應戰殉職せる際のもの

故中村岩藏氏 遺品

六年十二月七日、吉會線測量隊員

として職務遂行中敵彈のため殉職

せる際のもの

故大仁田武義氏 遺品

七年六月二十五日(日之丸國旗の

記事参照)壯烈の殉職をなせる際

のもの

防彈鐵子ヨツキ

佐藤元治氏 八年一月三日山海

關附近に於て皇軍を助け敵彈雨飛

の中に奮闘任務を果し生還、數十

彈を受く。

秋末莊驛匪賊襲撃 彈痕記念品

(時刻表其他手帳等)

鐵道線破に用ゐたる敵彈破片

鳳凰城驛標

六年十二月二十六日、匪賊襲撃應

戰退せる際の驛標に残る數多の

彈痕

鴻儒執政甫めて國都入の際用ゐ

たる記念國旗

東北軍飛行器プロペラ破片

紅槍會匪使用の紅槍

七年九月十六日、撫順匪賊重圍の

際奮戰敵匪を仆したる社員岩隈嘉

助氏の函獲したるもの

記念品合圖燈

六年十二月二十二日、高麗門驛に

九十名の匪賊來襲し故呂芳林氏は

勇奮應戰之を撃退して殉職す其際

同氏の所持したるものにして彈痕

を留止む。

ポンプガヴァナー

七年一月二十五日、釣魚臺附近、

匪賊我機關車を猛射、機關車ボン

博覽會見物の殉職者遺族に

無賃乗車券發給方申請

遺族各位

無賃乗車證

御請求なさい

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

遺族各位

殉職社員遺族に

伊東 萬次 岩本 禎藏
岩瀬 常雄 林 公一
橋口 英熊 星原 邦治
利光 正路 東野 善作
中條 寛一 大仁田 武義
渡邊 寛一 金谷 榮三郎
高口 一郎 外山 四郎
外山 一郎 練山 準一
中山 敏吉 中村 岩藏
口本 晉市 野添 四郎
松本 升次 柳田 佐市
小林 正之 古川 年定
廣瀨 吉盛 佐田 儀助
平島 善作

殉職社員遺族に 満博優待券を

近日事務局から配布

殉職社員遺族に、近日事務局から配布の満博優待券を、各遺族各位へ近日配布の等。

遺族各位へ近日配布の等。

一九二三年以後、コミンテルンの支部として極東赤化に任じ、その最盛期たる一九二五—二七年度の頃には黨員五十萬を越えた。尤も、それは孫文の國民革命遂行の三大政策たる聯俄（露西亞との聯盟）、容共（共產黨の容認）が公然と實行されてゐたからで、一九二七年四月の清黨クーデター（四月十二日上海では蔣介石、四月十五日廣東では李濟等）以後は全く表裏的に姿を隠し、その勢力も失

北滿特別區の廢止

帝政ロシアの東方侵略主義の遺物として滿洲國地方行政の障礙であつた北滿特別區も本年一月一日を限り廢止された。

北滿特別區はもと東省特別區と稱し、帝政華やかな時代には絶對的に排他的行政權を行使してゐたものであつた。地域は東は綏芬河より西は滿洲里に及び、南は寬城子に至る蜿蜒實に千七百二十餘里に及ぶ鐵道附屬地十萬五千町歩の面積を持ち、二市（滿洲里、綏芬河）五鄉（ハイラル、博克圖、富拉爾基、廣道河子、昂々溪）等の都邑を有してゐた。市及郷は自治制を施行し特別區公署に屬し、其の他の地域は十三の行政分處の管轄に屬してゐた。

今回これらの特別區を廢止し、民政部、蒙政部の管轄に移し、地方制度の一元的統制を圖つたことは、滿洲國地方行政の大飛躍を圖するものである。

せて、地下へ潜つた非合法的な組織となつて了つた。然し、南京政府の彈壓、取締りを潜つて、依然として上海、漢口、廣東等の諸地で機關新聞雜誌の刊行をやり、パソフレッットの頒布、勞働者に對する運動を續けてゐたが、漸次その活動も下火となつた。

都市に於ける工作の低減と反比例的に増大するに伴ひ、コミンテルンの指示は、ソウエート運動の擴大強化に及んだ、その結果が即ち國際路線。これは、一説ではコミンテルンのコース、即ちコミンテルンの方略であると言ひ、一説には、コミンテルン・コースの示し、即ちソ聯と東方とを通ずる赤色勢力の中國擴張を言ふのだとも傳へられる。中南部十一省に及んだソウエート運動を更に擴大強化して東は福建或は浙江から江西、湖南、湖北、四川、陝西、甘肅、新疆の諸省を経て、ソ聯のトルクシバ鐵道に連絡する擴張的ソウエート勢力圏の樹立を圖らうと言ふのである。一九三三年末の福建人民政府の樹立が、當初、共產黨の策動と看做されたのは、専らこの國際路線運動に關する南京政府の危惧から出發したものらしい。

瑞金放棄後の紅軍主力は、大體に於いて前述國際路線に添うて進んだので、その究極目的は恐らく甘肅より新疆入りであると推測された。而も陝西、甘肅に入つた朱毛軍が、新疆省へ進まなかつたのは、新疆省に於ける紅軍運動の準備が充分であるのに原因するのではあるまいか。

六、西北赤化の展望

茲まで書いて來たとき、西北赤化の具體的表現とも見るべき、綏遠省城のクーデター計畫が發覺したとの報道に接した。即ち、二月四日の「滿洲日日新聞」には、陝西省北部に迫つた紅軍と呼應して警備隊の綏遠省城にクーデターを行ふ、傳作義軍を擁護して綏遠ソウエート政府を樹立し、外蒙と連絡して西北赤色ルートを完成するクーデターに際して傳作義と日本武官羽山少佐を暗殺せよ、とのクーデター内容を報じた天津特電を掲げた。然して、この指令は、先ごろ上海から北平へ移轉した中國共產黨中央政治局から發出されたもので、これは一月十三日發覺して綏遠省政府の手に一味の連中が逮捕されたことである。

右のクーデターなるものゝ内容は、現地の詳報を知り難いから、斷定的には言へないが、若干疑義の存する點がある。例へば、中國共產黨中央政治局の北平移轉の如き、これが北平でなくて天津ならば眞實とも思へないでもないが、多少とも中國共產黨の内情を知る者に取つては些か腑に落ち難いところがある。綏遠ソウエートの樹立は、彼等に取つてはまだ具體的な内容を有つたスローガンではな

NO.1 一番良い限肝油

新評議員に聴く

十一年度になしたいこと

その三。

連盟聯合會第十四分會

五十嵐 四郎

一、社員會費を倍額徴收し「協和」をして百尺竿頭更に一步を進めしめると同時に社員會の爲め骨折つて下さつた人々に記念品を贈る事。

一、應酬禁止などの事を腰刀しく「協和」に載せて貰ひたい。金の有る者はウント買ふが可、皆ケチンボーになると世は不景氣になる、非常時に處する道一そんなにかましく言はんではいざとなれば給料の一部を献金する位の勇氣は持つて居る、少なくとも満員人はね

一、社員は自由を尊重し、しかし満員に立派な制服あるに不拘これをきて置き新たに社員會制服制定さる、くすくすたい感じがする、何故非常時に纏めたら社員に強制的に制服を着用せしめないか、そして其爲に制服を貸出たら其の全部でも半分で服代を徴約出来たら其の全部でも半分で軍にでも政府にでも献金したら下手に應酬禁止を宣傳せんではよからうと思ふ

安東聯合會第八分會

三 澤 記

私は昭和九年に於ける評議員として、當時事業復興身共に費する中間在住社員並家族連の都會に比べて餘りにも恵まれてゐる現状を目撃し、且つ年中無味乾燥の地に在りて活動奮闘の一つも見られぬ前記社員家族の爲めに、せめても娯樂場の一つ位完備せしめ都會気分を味はしめたいとの存念から「中間聯所在に於ける社員俱樂部（集會所）増築又は新築された事件」と題して提議したのでしたが、幸ひ當時の會費に於て本案は満場一致で可決されましたので終らず安心と喜びに充ちて重荷を卸した氣分で今日に及びました所、足掛三ヶ年後の今尙實現の見込みが遠くなつたので、當局に於ても斷力御努力されて居らるゝことは、萬々蒙知してをりますけれど、再度

奉天第一聯合會第十八分會

竹 中 太 良

周囲の情勢より觀て矢張り前年度同様精神作興の運動を時機に應じて催して欲しいと思ふ。

精神的に結ばれる團結、人と云つたことが目下の時局より察して一番に大切なことだと信ずるから。

哈爾濱聯合會第十三分會

瀧 上 國 行

社員會を名實共に強化し一致團結事業遂成の余力を以て在滿日本人代表の使命を示し以て國策遂行の一端を擔ぐ。治外法權の撤廢は日捷に迫つた、數千の關東局警察官を首め外務省警察官も其の他各種日本の統治機關を構成してある日本官吏の大部分は滿洲國官吏となるであらう、日本銀行券や鮮銀券に變つて國幣が御目見得する、在滿邦人團體の大半は滿洲國歌を歌ふ秋、日本の代表團體として「君が代」を歌ふ者は吾々滿洲國社員會と日本軍隊のみである。

於茲、吾々は日本軍隊と共に常に第一線に奮闘し之迄培養して來た日本精神所謂大和魂を鼓吹し以て新興滿洲國民を指導開發して行かねばならぬ義務がある。我々社員會は其の存立の主旨である一致團結以て事業の達成を期する外、積極的に日本の代表教化團體たるの自負心を旺盛にし、所謂新興滿洲國民に對し堂々先人の威容を示さねばならぬ。斯くするには此の社員會を名實共に一つと一強固なものにしなければならぬ。

其の實行方法として精神作興運動を頻繁に興し早起會、神社參拜、軍の送迎、事務系統の現場視察、場合に依りては積極に町内會の指導、御禮贈りも善からう、提燈行列も善からう、要は一一致團結以て事業達成の餘力を以て、眞の大滿洲の使命である先人日本の威容を示し以て新興滿洲國民を指導する。



「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました



郭文和「命懸けの仕事ですから何時迄もつづけて行けるものと思つてゐましたか」

郭文和「命懸けの仕事ですから何時迄もつづけて行けるものと思つてゐましたか」



「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました



「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました



「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました

キンイトイラ

天下第一品
一家一瓶

東京 徳島製



「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました

「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました

「三三年前吉林で百姓をしてゐましたが、思はしくないので、汪清縣の石道河子に入り、木材搬出の苦力をしてゐましたが、親方がさつぱり賃銀を呉れませんでしたのでやむなく昨年の秋苦力をやめ三合隊に加入しました」

吳作文「私は去年明月溝で苦力してゐましたところ、私の姉の夫である郭慶勳が救國軍に投じてゐましたので、どうかして改心させ歸順させようと思ひ、再三再四勸告に行きました。ところが義兄は暫く待つてくれ、俺も何れ時期を見て歸順するから、それまでお前も一緒に居れと言はれ、行動を共にしてゐたのです」

郭慶勳「私は義兄に討伐をうけてゐるから、今飛出すのは危いから、ほとぼりがさめた時歸順すると話しました」

何家安「私も吉林に居ました

天竺國名

感じやうと決して「退却」しやうとしないのが日本の兵隊だ。進むことより以外には何も知らぬ。私は何度かそれを體驗してきた。かつて僅か十騎ばかりで敵地深く侵入した時、約三百の敵に林縁で包圍されて、此處を死所と覺悟は決めたものの、一時有利なる地形の所まで退がる事を提議して殿られそうになつたことを記憶してゐる。その時は結局、無爲に戦死しても何にもならぬこと、地物を利用して敵に打撃を與へることが味方のためにも有利なること、退却ではなくて戦況の推移に依る戦線の移動と解すべきであるなど、敵を前に控へて約三十分も血氣にはやる少尉殿と議論して、命拾ひをしたことだつた。そうした命知らずの兵

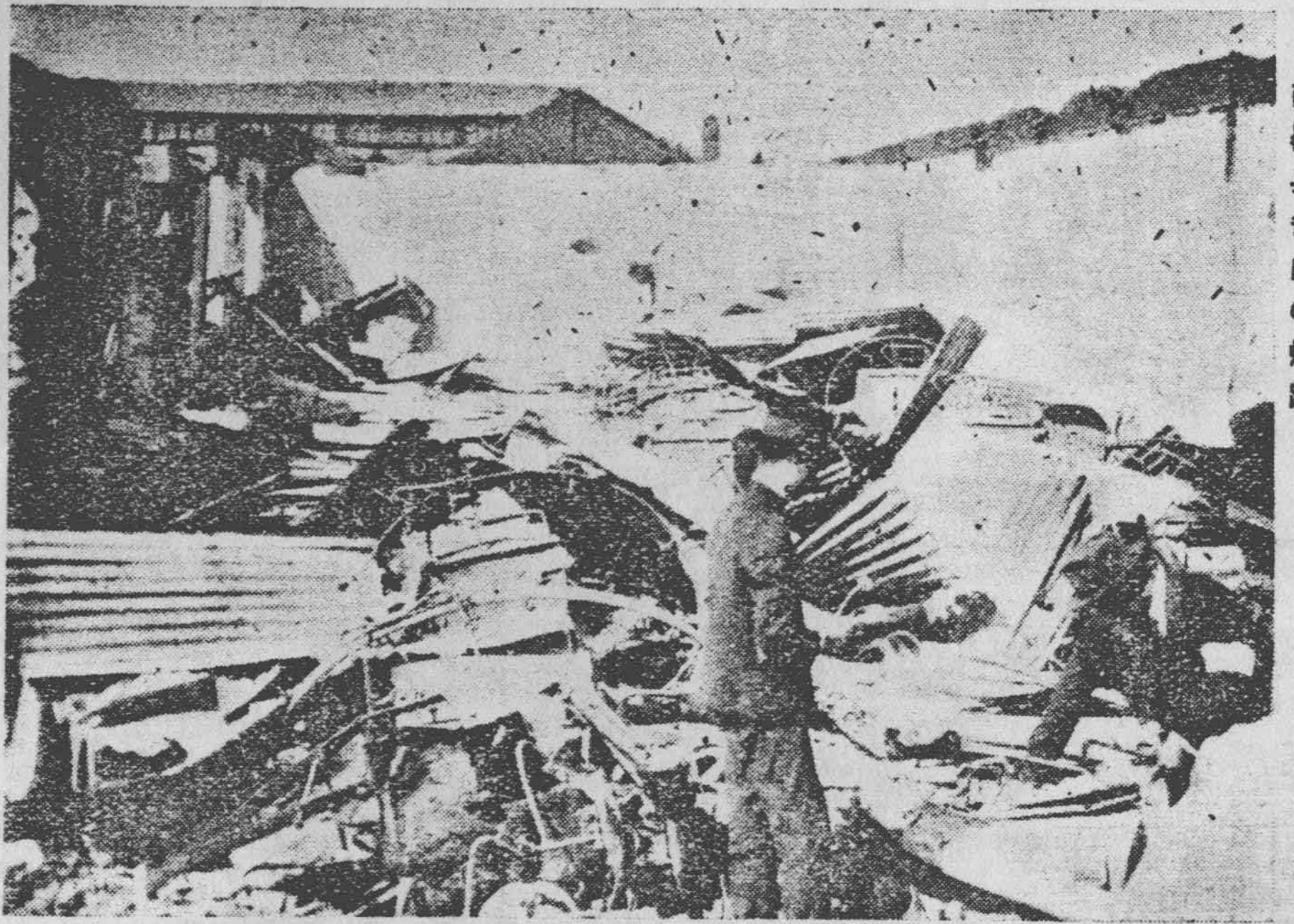
隊だ。彼等の頭には君國の二字しかない。それが日本人なのだ。戦死者の持物を調べた時、懐中僅か一錠銅貨が一枚だつた兵もあつたと聞いて民族のために死んでいつた痛々しさに、そよる暗涙に咽ぶのを禁じ得なかつた。

寛城子あたりの戦場ではそうでもなかつたらしいが、南嶺では市民も随分恐れたらしい。殊にタンクの下にある社員など、タンクを狙はれるとあの附近の住宅も相當やられるから平安町の人達なんか心配したそう。おまけにその前を寛城子あたりや南嶺の戦線から一束にして汚い支那馬車に乗せてくる戦死者や、蒼蒼めて血塗れた負傷兵の呻き聲を聞いて益々心細かつたらしい。

負傷兵を病院に運ぶ途中「おや、先生死んぢやつたぞ」「そんなら返せ」と後戻つて又元來た途をゴトリ／＼と揺られて行く。「は、あ、これも死んだぞ、その後歸りだ」「死んぢやつたらほんとに荷物見たいですわ」と平安町のある奥さんが語つてくれた。

事變以來運行不能に陥つてゐた哈爾濱から邦人婦女子の避難者が着いた。その何れの顔を見ても私が一番不愉快に感じた事は「もう大丈夫だ」と安心した故であらうか何れも嬉々としてゐたことである。音信不通の中に極度の不安に襲はれたためであらうが、あれでは餘りに情ない。何故かつて、避難の夫が（大して慰めでもあつた）「もう大丈夫だ」と

南嶺兵舎内の焼跡



い時や所では飛行機に限るそう。吉林まで一時間位、哈爾濱や洮南は三時間あれば一戦して歸つて來れるそう。翼の下に入つた爆弾が吸着されてゐるので七機位の編隊で敵の都市を襲ふて一時にボタン一つで投下すると大連位の町はすぐ消し飛んでしまふそう。餘り勇まし過ぎる話だ。ぶ／＼飛んで來られては支那兵も氣がでなからう。だから始めからおとなしくしてゐればよかつたのだ。

とりとめもないことを書き綴つたが、私はこれ等の戦ひを避つて、有形無形のりやくがあつたことを語りたかつたのだ。

私の友人に夫婦の微意期に入つてどうにもつかぬ男があつた。今度のどさくさで極度に緊張して、私利や私情を捨て、如何にすれば善處し得るかを考へ、死ぬ時は共にと暗黙の裡に誓つたそう。そうした事から感情の融和をみて最近では又圓満に生活してゐる。戦争でもなければ、あの最初の夜の砲聲を聞いた不安の夜がなければ、彼等は永久に異つた道を歩いて行つたであらうし。

もう一人ある。保護區にあるKといふ親友だ。恐ろしくピストルの好きな奴で、テプスで死にかゝつてゐながら、外界と絶對に隔離されてゐるのに何處から聞いたのか、支那側からの分捕品中のピストルを警察で拂ひ下げるとかで、そうしたら「一錠買つておくやうに」と妻が申渡したそう。妻も呆れたらうが「一錠買つておくやうに」と妻が申渡したそう。

「この足を見てくれ」と出した彼の瘦せた足を見ると何年かの間私と生死を共にし、多くの女や友は私を裏切つたが、かつて一度も私を裏切つたことのない私のピストルを彼にやることを約束してしまつた。好漢配なれと言つておきたい。

もう一人の友人は事件の晩に戦線係りとして奔り廻り、心臓を損ねて憲兵分隊の一隅で生死の巷を彷徨ふてゐる不運な男だ。

不心得な奴だが、時局で人々が遠慮してゐるのを幸ひこつそりカフェーに忍び込んで大いにもてた奴がある。餘り芳ばしくない話だ。

最後に私は、戦争と聞いて十年前の私に返つてゐた。波瀾萬丈な生活を渡つた自分が見出された。そして砲彈の炸裂する音と、煙硝の臭ひと血の色との中に偽らざる人生を再び見やうと胸に盡いたのだ。其處には虚偽がない。不信がない、眞面目なそして赤裸々な人間の眞の姿があるのみだ。技巧を弄することもいらぬ人間の醜惡な姿を見ることもない。

すべてが至誠と簡潔の四字に盡くる戦場では借金取りの心配も、食ふことの心配も、生きることの悲しさも戀愛の苦惱も、何にもすべてが超然としてゐるのだ。私も心の傷痛を癒すべく、境遇や地位を考慮する暇さへなく昔の幻影に追はれて走つて行つた。

戦地に起居して、砲聲の洗禮を受け、常に生死の巷を彷徨したものになければ、戦の予備隊や人生戦はわ

た。戦地に起居して、砲聲の洗禮を受け、常に生死の巷を彷徨したものになければ、戦の予備隊や人生戦はわ

た。戦地に起居して、砲聲の洗禮を受け、常に生死の巷を彷徨したものになければ、戦の予備隊や人生戦はわ

60期
昭和六年六月十日
吉林に於ける排日運動

佐久間弘雄

はしがき

何も系統的な調査でも無いが、當地に於て起つた排外運動の断片を追想しつゝ記述して見よう。

吉林は由來支那各地では見られな

吉林に於ける排日運動

佐久間弘雄

非常に圓滿で、或は教育方面に或は經濟方面に於て相提携し益々親善に向ひ、反日否排日の運動は夢想だにもしなかつたのであるが、大正八年督軍孟恩遠去つて以後、漸く之が運動の兆を見るに到り、遼寧國民外交

開國の機運の度合は漸く著しきものになりつつた。加ふるに、中華民國は漸く統一の機運に向ひ中國々々民黨なるもの組織成立せられ、各地には國民黨支部が設立せられ、當市にも本年五月一日に國民黨支部成立の典禮式舉行されてより、市内に宣傳科を設け、それ等委員に依り排外運動が提唱實施されることに爲つた。之等學生及黨委員は更に遼寧國民外交協會と連絡關係し排外運動を徹底すべく組織立てられ、特に黨務指導委員會宣傳科に於ては排外的宣傳をより巧妙により徹底的に行ひ、自己の成績を擧げん事に勉めつゝある現狀にて、反日排外運動が一種の職業と化したことは國際關係上誠に望外の到りである云はねばならぬ。

(一) 中日鐵道交渉後援會

先に日中兩國は近く奉天に於て鐵道交渉を開始せんとし、兩國は之が委員の發表を見、吉林學生聯合會は鐵道交渉を有利に進展せしめん爲め中日鐵道交渉後援會なるものを組織した。今之が概況を述べよう。

組織

昭和六年六月十七日、吉林大學、五中、一中、毓文、文光、女中、職業、醫專、東林の各校の代表は吉林大學に第一次大會を開催し會名を「中日鐵道交渉吉林市學生後援會」とし、組織としては首席團、監察團の二種として更に各團を交際、宣傳、文書、庶務、會計、印刷の六部として、遼寧國民外交後援會と聯絡して目的を貫徹せんとす。

同年六月二十一日、吉林省城各中等學校以上の學校の學生は女子中學に於て討論大會を開催し、前記十二校代表が列席し、行事の進行方法等に就き協議討論し、左の如く議決した。

イ、市街講演を舉行し睡夢の民衆を喚起し協同一致外交を援助すること。
ロ、大講演區を六區に分ち一區二校宛に分擔せしめ各區に多數の糾察員を派遣し秩序維持に當らしめ、各校講演者は五人以上十人迄とし、宣傳ビラ等完了の上決行し公安局教育廳と接合し保護と援助を受けること。

(C) 講演中止と聯合會

省教育廳及公安局は學生聯合會上講演の開催せられることを知り、各校代表に向ひ、該講演會が却つて外交上の問題を惹起し、交渉を不利に導く虞れあれば街上講演會は停止すべく諭した。故に六月二十三日午後三時吉林大學文法院に十二校代表會を開き街上講演は中止するも、各種宣傳ビラを印刷して各地に發送し、市内外重要地點には大布製の標語及紙製標語を貼布して輿論を喚起し、長春萬寶山事件の真相を確め調査の上宣言を發表すること等を議決した。

(D) 中日鐵道交渉後援會全市へ宣傳ビラを貼る

豫て同會にて決議せし通り、二十八日早朝に到り全市を六區に分ち各區を二校に受持たしめ、市内目抜き場所の紅白黄緑各色の布紙に大書した標語を掲げ、語句頗る人の注意を惹き大通り河南街に、白布の宣傳

1、鐵道交渉の公開を要求す
2、日本の對滿政策を打倒す
3、五路協定を承認せず
4、死を誓つて日本の四項の要求に反對す
5、民衆よ起て日本は滿蒙を侵略せんとす
6、中國の境内にて中國は自由に築路する權利あり
7、鐵道平行線は問題とならず
8、運賃改正問題は許可し難し
9、日本の滿鐵中心政策を打倒す
10、日本の大循環政策を打倒せよ
11、日本の複線政策を打倒せよ
12、嚴重に中國の會議委員を監視せよ
13、秘密外交に反對す

當局は大々的にポスターの掲げられたるを知るや公安局に命じて之を撤去せしめ、王教育廳長は當日午後八時各學校校長及學生代表を召集し、講演も標語も當分之を見合せるべく左の如く訓諭した。

目下首席(張作相)は在城せられず留守を預かる熊參謀長として萬一の事よりして治安を害し其産黨が其の機を伺つて活動することとを非常に戒心して居られる次第なれば、諸君も其點をよく諒解し輕率妄動を謹まれ度しと。

學生等も其の旨を諒とし學聯會の示威運動も茲に一段落を告げた。

(E) 鐵道交渉後援會代表赴遼

七月二日吉林大學文法院に學生後援會を開催し赴遼代表者四名を選出した。代表は七月四日吉林發射遠し張主席、高紀毅、王化一、盧廣偉等と面接々合す可く議決したが、七月

七月三日交渉後援會の一部交渉股は長春萬寶山事件の排日宣傳ビラ一萬枚を印刷し、尙文書股にてはパンフレットを至急作製して各地へ發送し、反日の宣傳に勉めることを決議した。

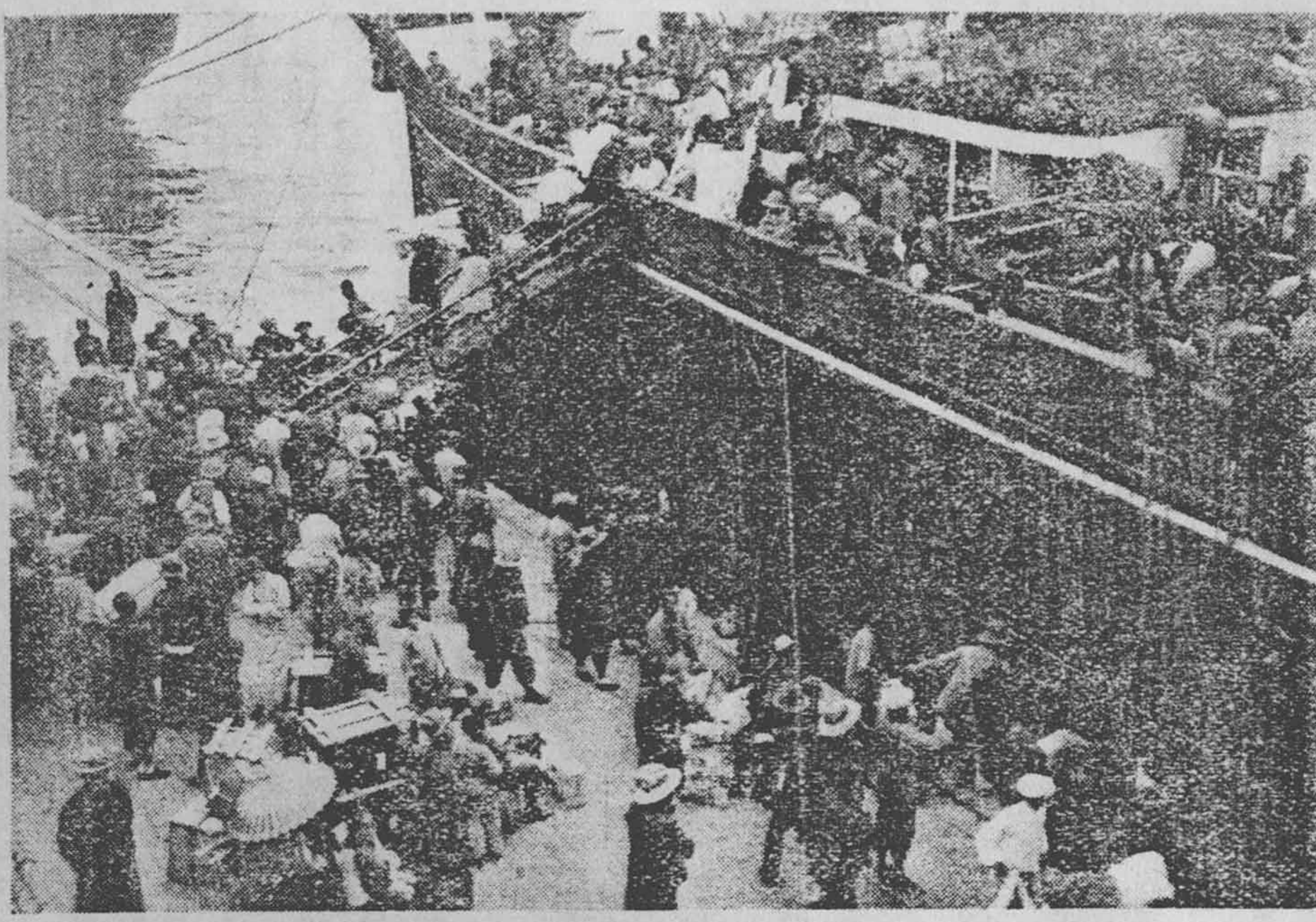
(F) 後援會と萬寶山事件

最近支那南方の各都市に於て反日の風潮が熾烈に起きつゝあるに反し吉林は依然平靜の狀態を持續してゐたが、最近吉林省黨部指導委員會は相當激烈な排日宣傳を開始し、「萬寶山、朝鮮の二事件につき民衆に告ぐるの書」と題し市内各方面に配付した。其の内容を見るに

(二) 對日經濟絕交提唱

吾等は日本と經濟絶交をなし低價を決定することは日本帝國主義を打倒するに唯一にして最も有効な方法である。即ち吾人は徒歩しても決して日本の汽車に乗らず、電車も乗らず日本に布帛を賣らず、餓死するも日本の糧食を食はぬことにし、吾等中國人は日本の供給を待たねば生活を續け得ないものではないことを明示せよ。日本は吾等の中國の此の大なる市場と四億萬人の得意先を失つたならば、彼等は數年を出でずして、經濟上に恐慌を來し、或は貧窮消亡を起すであらう。斯様になれば一兵を費さず、一矢を放たずして敵

船に乗込む奥地からの避難民・その二



別に南風や茄子が放り出されて
其の隙隙する匂ひがむつと鼻を衝く
兵舎の内部は随分と取亂したもの
で軍帽がとんでゐる。枕がころがり
て散らばつた上にはいさゝかの埃
がたまつて蠅の羽音のみが徒らに
かしましい。

□

兵舎の内部は随分と取亂したもの
で軍帽がとんでゐる。枕がころがり
て散らばつた上にはいさゝかの埃
がたまつて蠅の羽音のみが徒らに
かしましい。
兵舎の上をとりめぐつて秋空
はいたく澄朗だ。軍服を便服に着か
へて逃げやうとした将校や兵卒が、
かへつて逃げ遅れて死んだといふ話
もきいた。或兵舎には週番士官らし
い者の遺骸がのこつてゐる。臭氣は喉
にむせる。
機嫌を悪くしたのは軍官学校の生徒
である。こゝは流石に整頓もゆき
とよいて寢臺の下に物品の整理も美
事だ。各々右側に兵書を積み重ね、
被服や其他も一定の置場にきちんと
整んで、紅顔の少年兵を想はしめ
る。彼等は曾文公を愛讀すると見え
る。

支那兵の如き全く眼中になかつた
のである。若き歩兵の伍長は言つた
自分は或分隊を率ゐてこゝに迫つた
のですが、殆ど無人の野をゆくが如
くやつてしまつたと。其の東北訛も
ひどく素朴で一面まことに頼もしい
ものがあつた。鐵甲は秋陽に照らさ
れて、日に焼けた鐵に疲れの影だに
見えぬ。廣い兵舎の中央に立つ日の
丸が風になびいて、劍光輝耀たる
吾輩上監兵は凛々しく四邊を俯瞰
してゐる。このたびの戦場に勇名を
馳せた某中尉の軍刀は三尺に近くそ
の束を捲いた白布が手垢に塗れてゐ
るのが、いたく僕を心をひいた。最
少の兵力で最大の効果を収めた事を
想ふにつけ吾輩に對する僕の感謝
の念は深かつた。

飛行機はいく度か空を翔り、その
影に小鳥のむれが慌てかくれる。廣
い練兵場には人の影もなく秋の陽は
小草の上を照らしてゐた。焼け落ち
たトタンのひびきが道まで響く。
僕は迷ひ出した兵士が、これから冬
にかけて如何に良民を苦しめるかを
考へ、放たれし匪賊の群の跳梁を想
つた。

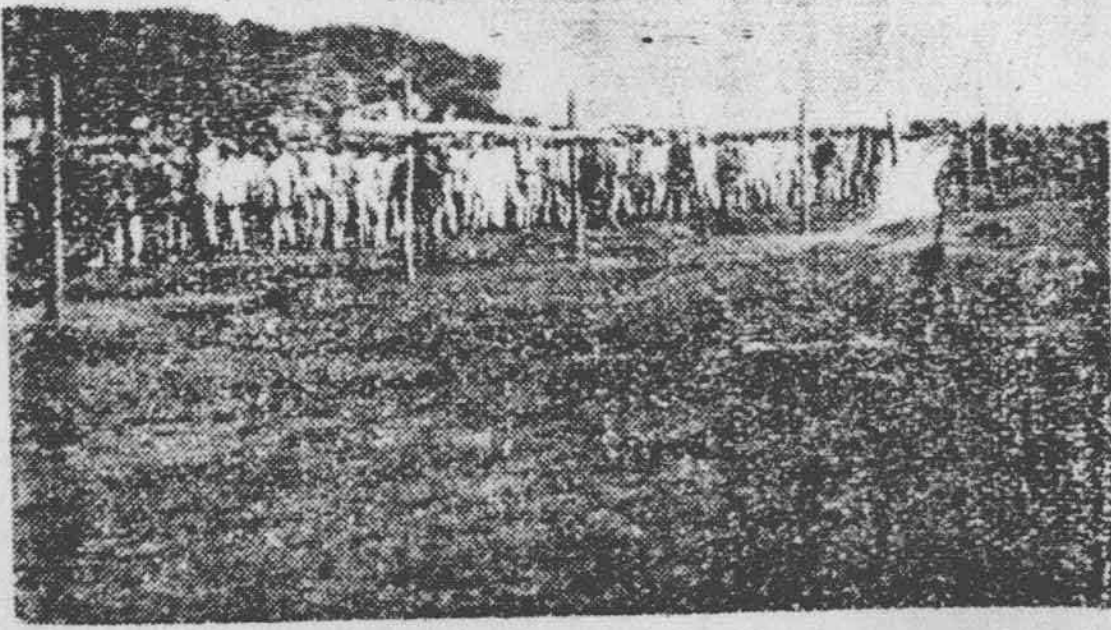
戦ひを廻つて

佐藤通男

澄み渡つた秋の夜の空に、あか
く燃える北大營の火災と、虎石
臺あたりを砲撃中らしい我軍の砲聲
を遠くに聞いて、かつて十年も昔に
戰場を馳騁した我が身を想ひ出しな
がら、戦ひの奉天を一巡した。二十
日の夜、大連に歸ると二日目の晩に
は長春附近の戦ひの後を窺ふべく、
又夜行に身を托した。
車の中では普通旅客は殆んど見え
なかつた。乗りあはした人々は軍人
か、特別任務に服するらしい私服の



◆奉天財政廳に掲る日章旗



寛城子に於ける支那兵の捕虜 (右方は白旗)

私に戦争が如何に悲惨なものであ
るかを十七、八の時分からまさしく
と見てきた。然し所詮は力に依らね
ば解決がつかぬ幾多の問題があるこ
とも知つてゐる。敵となり味方とな
るもこれ等しく兵者のさだめであら
うが、戦ひの裏には人道や武士道の
敵を向ふにまわして、どれ程危険を

大飛行を目ざして來朝した兩氏は青森縣津代海岸で數日間機會を覗つてゐたがいよく機熟し、十月四日午前七時一分離陸し一路北海征空に向つた。續斷飛行家をいくたびか阻んだ魔の北海もこの勇敢で細心な青年によつて征服された。出發後、スピードを増す爲に車輪を太平洋に投じて全く背水の陣を布いた彼等であつた。征空四千八百哩、出發後四十一時間十分で、五日午前七時十分（日本時間六日午前〇時十分）アメリカ、ウエナツチ市に着いた。ウエナツチはチャトル東方九十マイルの地點にあり人口一萬の小都會である。

園田守雄

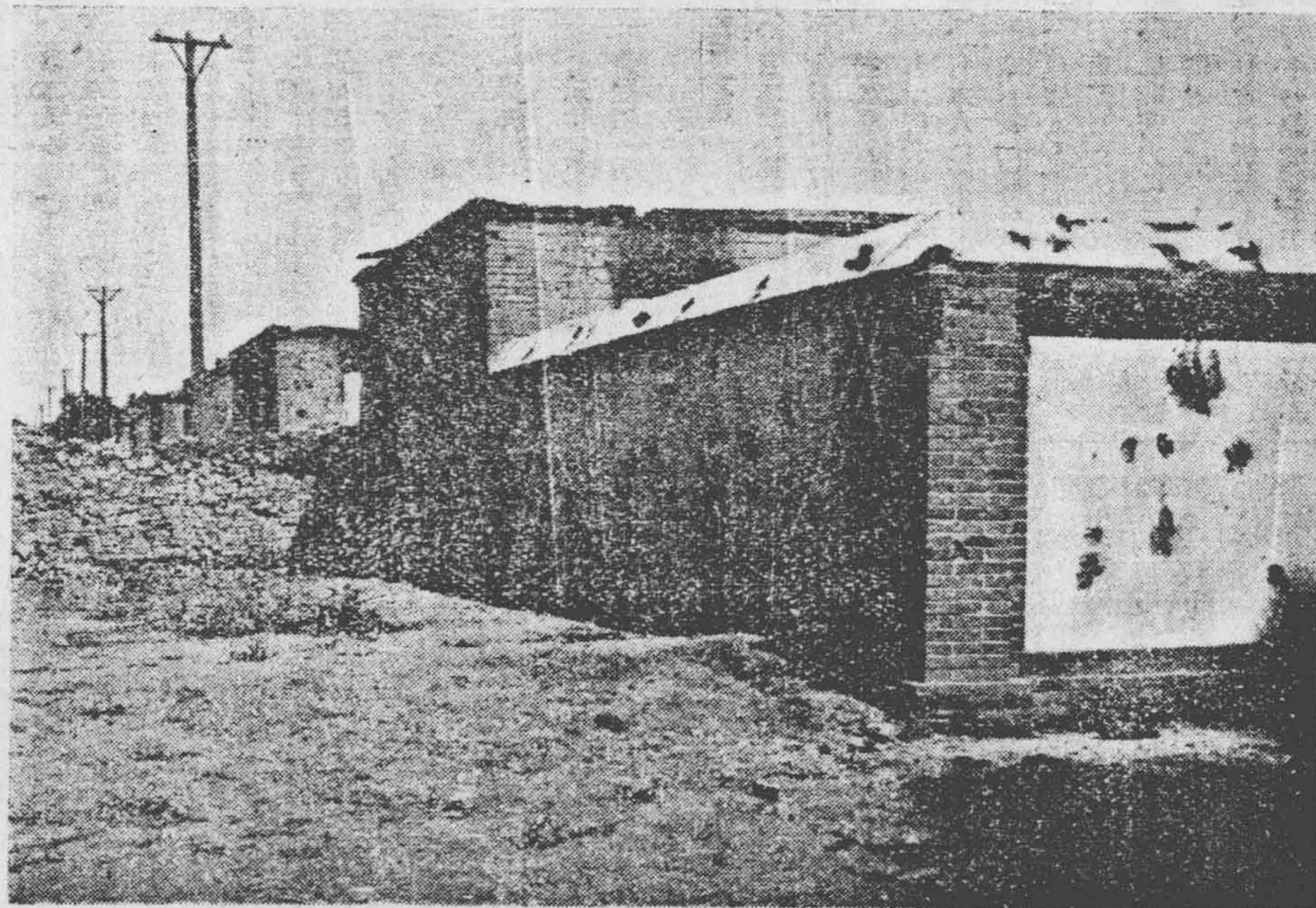
た東北空軍（偵察、軍輕爆撃、戰闘教育等を合し百餘機を有せりと稱せらる）これらのものが一夜にして悉く吾軍の占據する所となつてしまつたのだ。事變前に於いては「日軍は近時の戰闘に慣れず、吾軍は幾多の國內戰に於いて訓練されてゐるから問題ではない」等と頗る景氣のよい宣傳をして、事毎に力味かへつてゐたのであつたが、十八日の夜から十

奉天の治安は吾軍と自治委員會によつて完全に保たれてゐる。便衣を着た敗兵の入り込みや、浮浪人達の取締りにはかなり苦心を要するであらう。殊に日本の大震災でもつぶさに経験したが如く、市民を迷はすものはたしかに出鱈目の流言蜚語に如くはない。人間の叛断といふものが如何に無力であり、群衆の心理といふものが如何にとりとめのないものであるかをまぎ／＼と知つた。しかし吾軍の厳正にして堂々たる行動は奉天民衆の信望を深め、市内は日増しに平靜に歸しつゝある。

支那の勞働者は鼻唄を歌ひ乍ら新家の壁を塗つてゐた。路に立つ巡查は型の如く交通整理に當つてゐる。失ふところなきものに苦惱はない。官憲と官商等に如何に深刻なものがきがあつても、勞働者には不關事である。

東北の驕兒、學良は北平にあつて病後の身を擁しつゝ見はてぬ夢の跡を追つてゐるであらう。彼の焦心の様は眼に見えておかしい。せめて外國銀行に預けた巨萬の金をたよりに最後のものがきを繰りかへすであらうが、根を断たれた樹木に見るあはれさを、彼と舊武將連に見るのはひとり僕ばかりではあるまい。

北^{きた}大^{だい}營^{えい}にいたる道の兩^{りやう}側^{がわ}には柳^{やなぎ}が植^うゑられて、曾^{かつ}ては汗^{あせ}あえた兵^{へい}達^{だつ}のためによきかげりをなしたであらう。日に深^{ふか}む秋^{あき}の色^{いろ}に思^{おも}ひなしか締^{しめ}もつすれて、露^{つゆ}冷^{ひや}えまざるよひ／＼に散^ちりしく日も遠^{とほ}くはあるまい。



◇北大醫激戦の跡

の烟だ。一萬に餘る兵のこれから冬
にかけての副食物であるだけ、實に
ものは名の如く無抵抗に逃げ急いだ

素晴らしい領域を白菜が占めてゐる。茄子も随分と殖ゑてあるが、すでに終りで色褪せたその葉にも多近しの感が深い。見る／＼廣い練兵場だ。やがて兵舎だ。

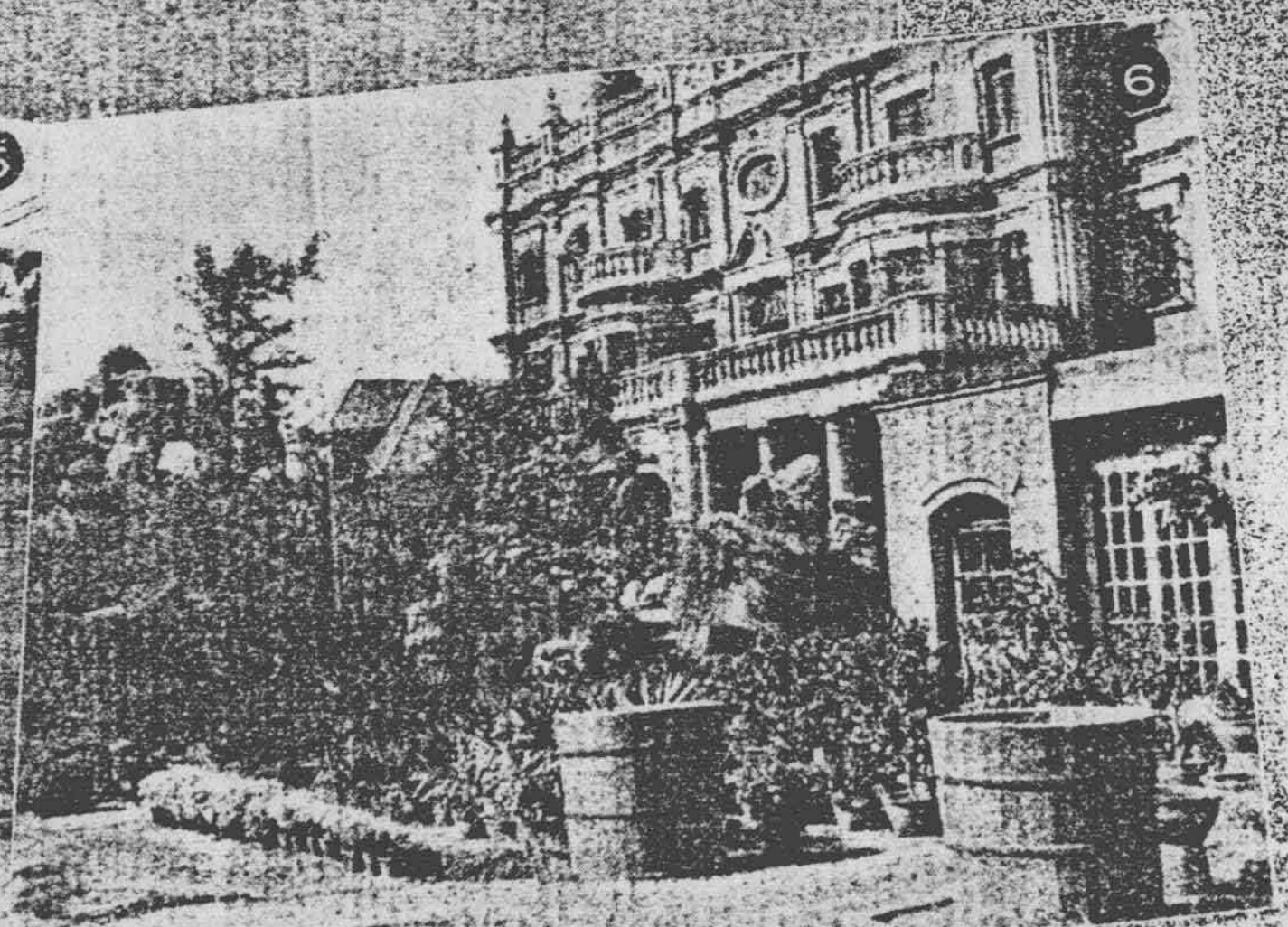
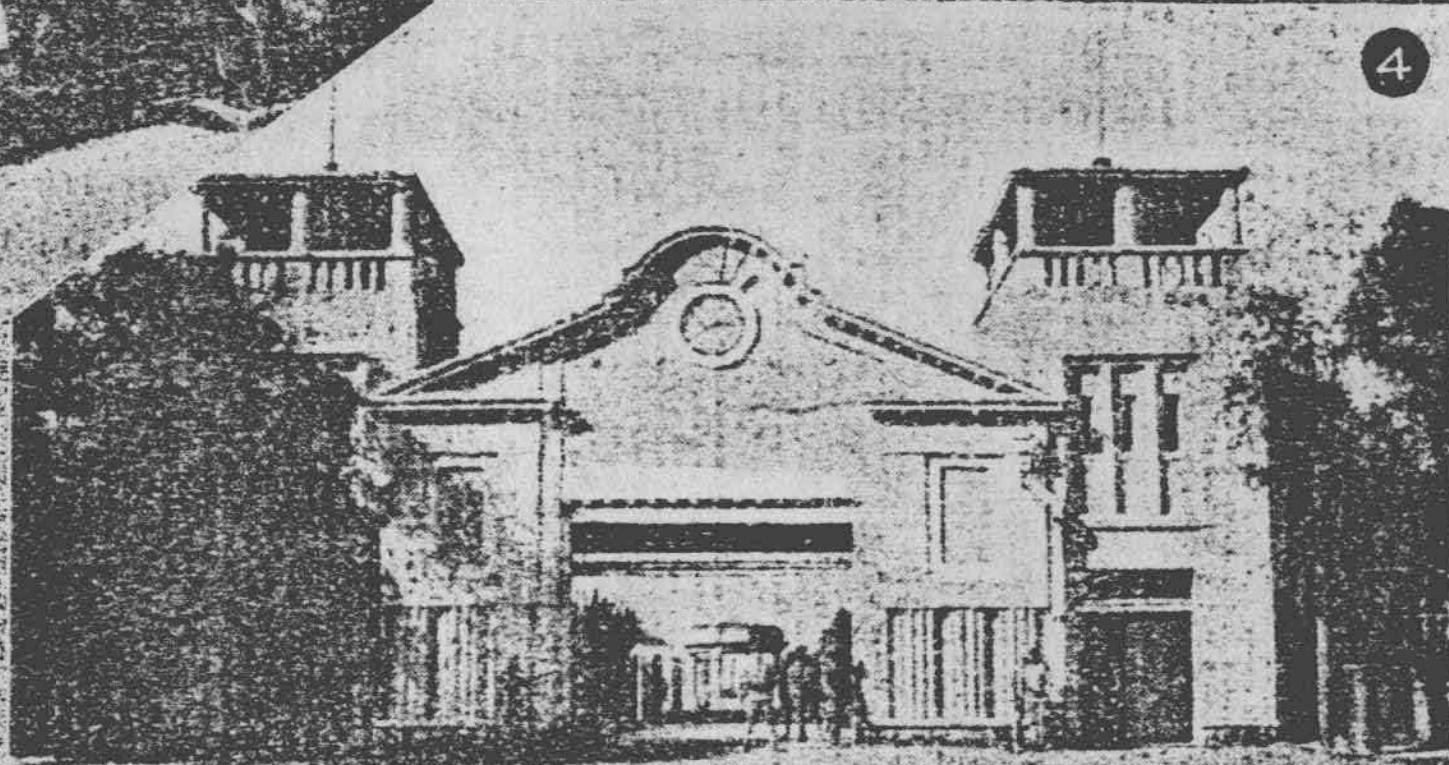
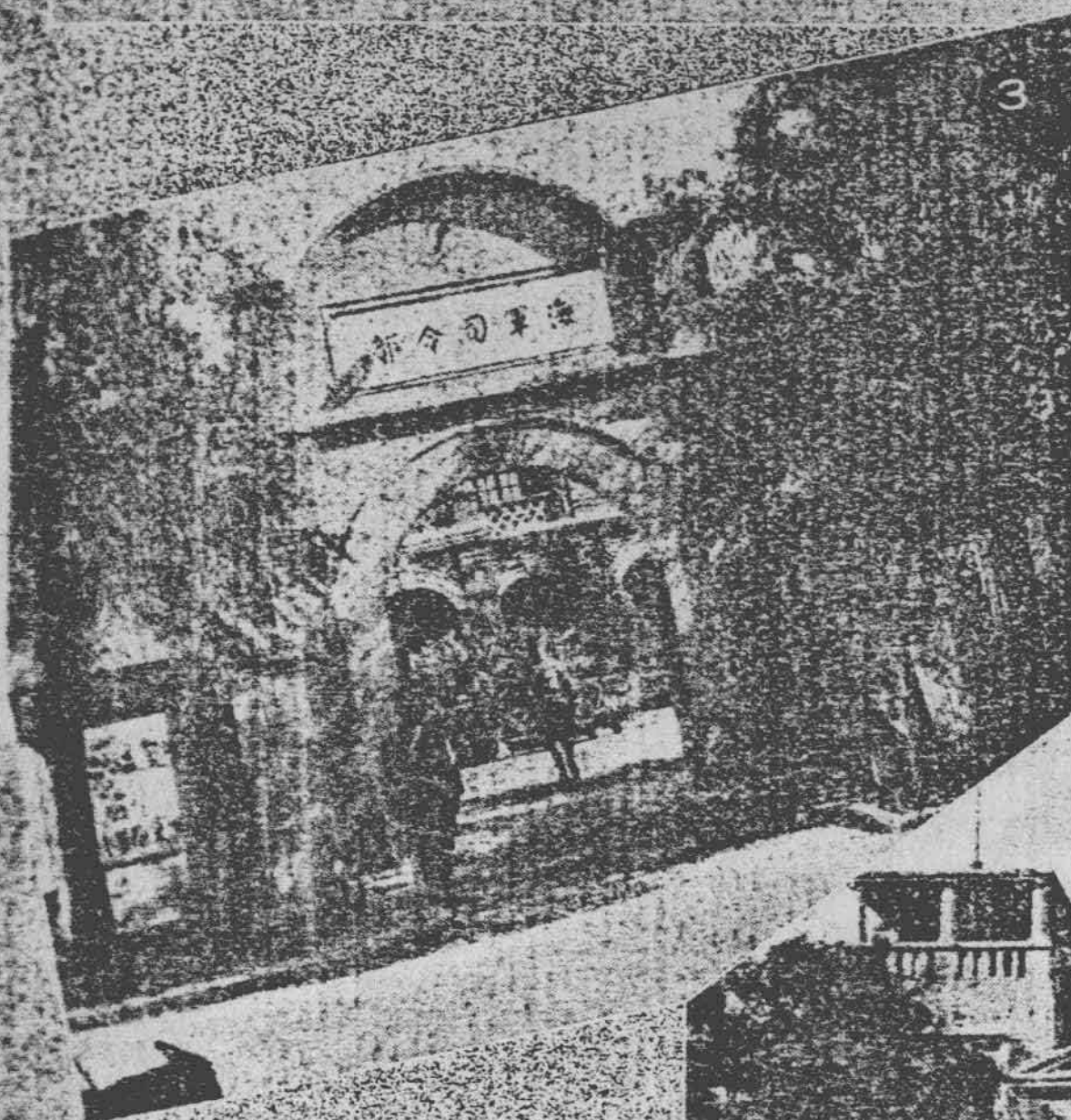
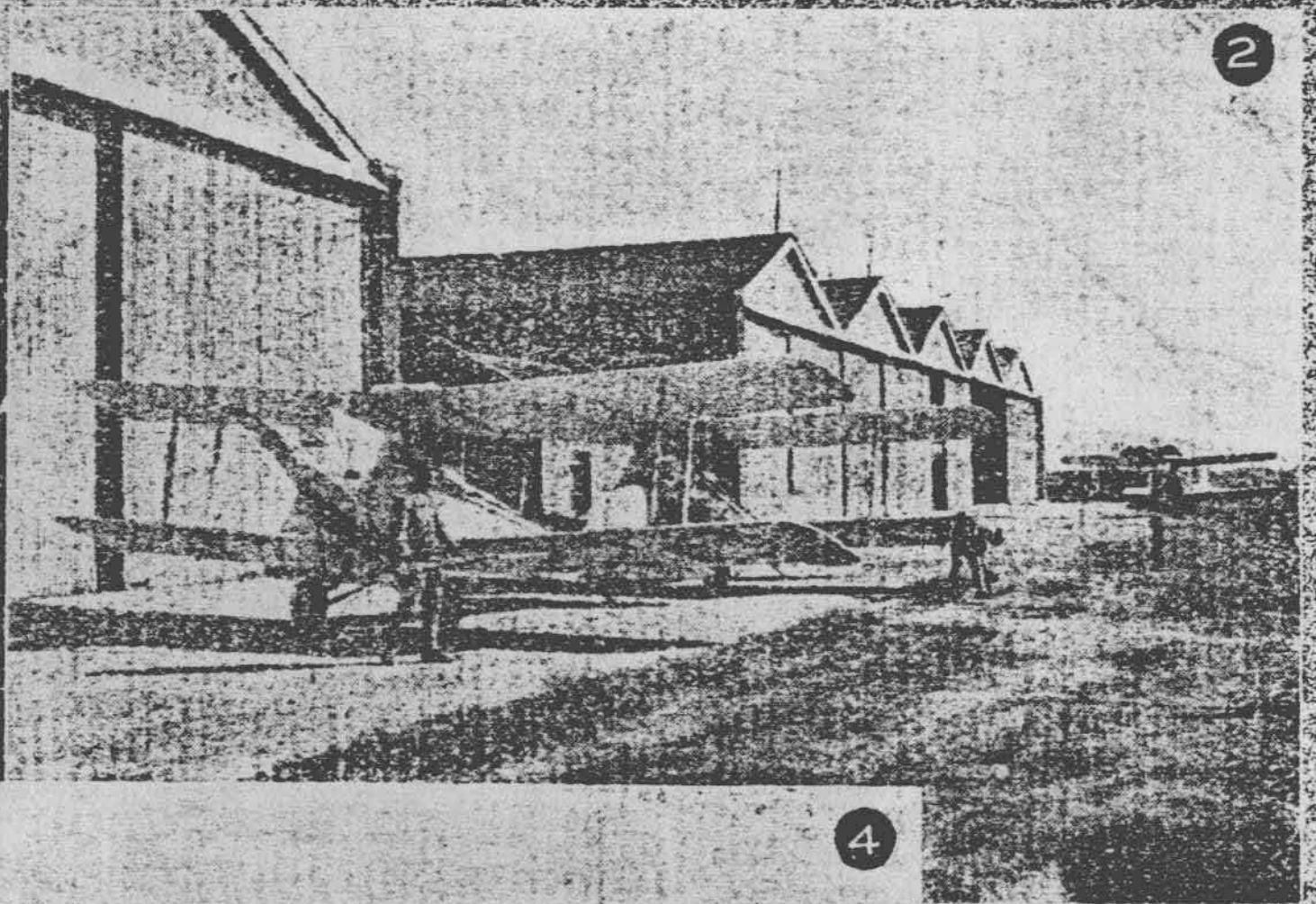
兵舎を示した番號札、週番士官室連長室等の標札は今にそのまゝだ。十七日に給料を渡すといふ軍需處の布告もあれば、十八日の獻立を書いた塗板の白墨もいまにその儘であ

立ちならぶ兵營、綠樹にかこまれる。
兵舎の周圍や小庭にはえぞ菊が植ゑられて、すがれの色が目立つてゐる。森閑と秋はわびしく實に兵舎だ

《協和》61期
昭和六年十一月一日

關機諸舊天奉

- 1. 遼寧省政府正門
- 2. 東塔飛行場と支那側飛行機
- 3. 海軍司令部
- 4. 兵工廠正門
- 5. 陸海空軍司令部公署
- 6. 張學良本邸



一、東北政局の動き

張海鵬と馬占山の衝突

滿洲事變の勃發當時、黒龍江省主席張海鵬は北京にゐた。留守をあつた若い萬國寶ではこの動搖を沈静させる力がなかつた。遼寧省と獨立の機運が濃厚になつて來ると、黒龍省でも虎視眈々たる洮南鎮守使の張海鵬は、十月一日を期して獨立を宣言し、邊疆保安司令の名を用ゐて洮遼七縣の治安の責に任ずる旨を布告した。

十二月に至つて張海鵬は萬國寶に黒龍江省城、ハルのあけ渡しを要請したがこれに對する萬國寶の態度は極めて曖昧であつたので張海鵬は意を決して十四日部下三ヶ旅を率ゐてチ、ハルに進軍した。この報に驚いた萬國寶は公金六百萬圓を持つて行衛を暗まして了つた。その結果、張海鵬のチ、ハル入城が傳へられたが、黒龍江軍は勞農ロシアの擁護に勢ひを得た爲か俄然活氣づき猛烈な抵抗を開始したので兩軍は激江を挟んで對峙する事になった。かゝる間二十一日に至つて馬占山は黒龍江省主席に就任、張海鵬討伐を聲明し、局勢は一變を見せたのである。

黒龍江省軍洮昂線の鐵橋を破壊

二十三日チ、ハルの清水鎮事省政府に對して嚴正抗議を申込み復舊を追つたところ、一、張海鵬軍が完全に撤退すれば修理に取りかゝる、然し、修理後張海鵬軍は勿論日本軍が來れば直に射撃するから左様心得られたし」と明かに敵意を示した。

洮昂線は我が借款鐵道で奉天政府と滿鐵の契約によつて生れたもので、大正十四年三月起工、翌十五年十二月一日引渡完了し、同日より營業開始したものである。滿鐵はこの鐵道敷設のために、工事費約一千三百萬圓、車輛其他約四百萬圓合計約千七百萬圓を出してゐる。然して契約によれば鐵道引渡後直に建設費一切を仕拂ひ、若し右費用を六ヶ月以内に仕拂はざる場合は借款契約を締結すると共に年九分の利子を仕拂ふといふことになつてゐたものであるが、舊奉天政府はこれを履行せず、昭和五年六月まではすでに元利合計二千二百六十萬圓に達してゐる。

馬占山の挑戦

鐵道修理班を擁護した我軍が鐵江の破壊された鐵橋にさしかゝるや、砲二十門迫撃砲十二門、歩兵千三百名を以て待機中の馬軍は四日午後二時、白旗を掲げた軍使を派遣し、我軍が之を迎へんとする刹那一齊に火蓋をきり、二十門銃さきを揃へて我軍を猛射した。

この卑劣な挑戦に對し、我軍は直に應戰を開始したが、馬軍の援兵頻々増加したる爲苦戰に陥り、多數の死傷者を出し、五、七の兩日大興附近で數千の黒龍軍と戦ひ遂にこれを撃退した。我軍の死傷者百三十名、いかに苦戰であつたか判る。

馬占山をやつるソ聯

各方面の情報を綜合すればソ聯の馬占山援助は確實なるものゝ如く放任するときは極東の平和を攪亂する恐れありとなし、我が外務當局は廣田駐露大使を通じて二十七日左の意味の忠告を發した。

貴國軍隊は一部地方に集結し國境侵犯の意あるが如く傳へられ又北滿地方における支那内部の争鬭に干與し、武器を給與しつゝある趣きなるが、これは國際信義にもとより極東平和を攪亂する行爲と認めざることを期待す。

東北交通委員會成立

舊東北政權の下にあつて東北交通機關の元締として羽振をきかせてゐた東北交通委員會も、事件勃發とともに幹部の逃亡によつて事實上解消の姿となつた。それが爲鐵道經營に種々支障を來たしたので復活の要望起り、我軍部も之に賛じ、九月二十三日滿鐵鐵道局長丁鑑修、四洮鐵路局長關鐸、洮昂鐵路局長萬成章、吉敦鐵路局長金壁東、地方維持委員會代表趙欽伯氏等の關係者會合し協議の結果、新東北交通委員會設立を決議し、丁氏が委員長に、金氏が副委員長に就任十一月一日發會式を舉げた。

設立趣意書

鐵道は世界共通のもので文化經濟に至大の關係を及すものであるから東北四省の各鐵路一切の行政は東北交通委員會においてこれを掌り一般民衆に寄與せんとするものである。

契 約 書

東北四省の各鐵路は鐵道の完全なる發達維持並に統制を計るため東北交通委員會を組織して鐵路經營の最高機關とし鐵路一切の指導監督を受け鐵路本來の使命を果し一般民衆の利便を計る事を契約す

遼寧省政府事務代行
袁金鎧氏等の遼寧地方維持委員

聲 明

事變發生以來政權停頓せるにより本會出でて維持せり、既に聲明せる如く既往と將來は之を問はざるも目下の此の過渡期間に於て政權を代行し、全省の政令をして舊に照し施行し以て人心を安んぜしめざるを能はず、即ち茲に聲明す

遼寧省地方維持委員會 告 佈

在滿鮮救濟策成る

在滿八十萬の朝鮮同胞はいたるところで掠奪、凌辱、迫害に遭つてゐる。特に、事變後敗殘兵によつて奥地にある鮮民は極度に脅威され、被害者數千を算するに至つた。こゝに於いて關東軍、朝鮮總督府、總領事館、關東廳、滿鐵當局において對策を台議考究中であるが救濟策は當面の緊急對策、根

◇支那軍傷兵の施療

我軍は奉天日本赤十字病院に敵を收容して治療に盡した



力強きこの来援!!
第四中隊の意気は銃口からつづば
しり出た。第一中隊は火薬庫を攻
し更に無線電信隊に進むことに策
が打合せられると、一半の重荷を下
ろした第四中隊は東部兵營に向つて
進んだ。

二發の砲弾

第六百二十團第一營の敵兵は第二
營に逃げ込んで門扉を堅く閉ざして
抵抗した。如何にして門扉を破壊す
るか？突撃？手榴弾？然も餘すこ
ろ一時間！
S小隊長の苦慮は云ふべくもな
い。
「歩兵砲を探せ！」突如小隊長はう
め、様に叫んだ。
敵の猛撃に應じながら營舎裏の
探査に味方は狼狽しはしないだらう
か。S小隊長の苦慮は續く。
「小隊長殿！ありましたッ」
「そうか？彈丸はあるか？」
「二發ありますッ」
「よし、引はつて来いッ」

引き据へた敵の歩兵砲は肝腎の照準がとれない。時
間容赦なく進む！四時はとくに過ぎてゐる。今は
躊躇する時ではない。焦慮に悶えたS小隊長は死物狂
ひで怒鳴つた。
「砲身から覗いて打てッ！」
ドーン……第一發は門扉の上部を破つて飛んだ。あ
となつた一發！
お、この一發!!
門扉の破壊は最後の瀬戸際だ。
砲手を承つた兵士の顔は異常な緊張をしてゐる
「打てッ!!」

交戦

高崎昌彦

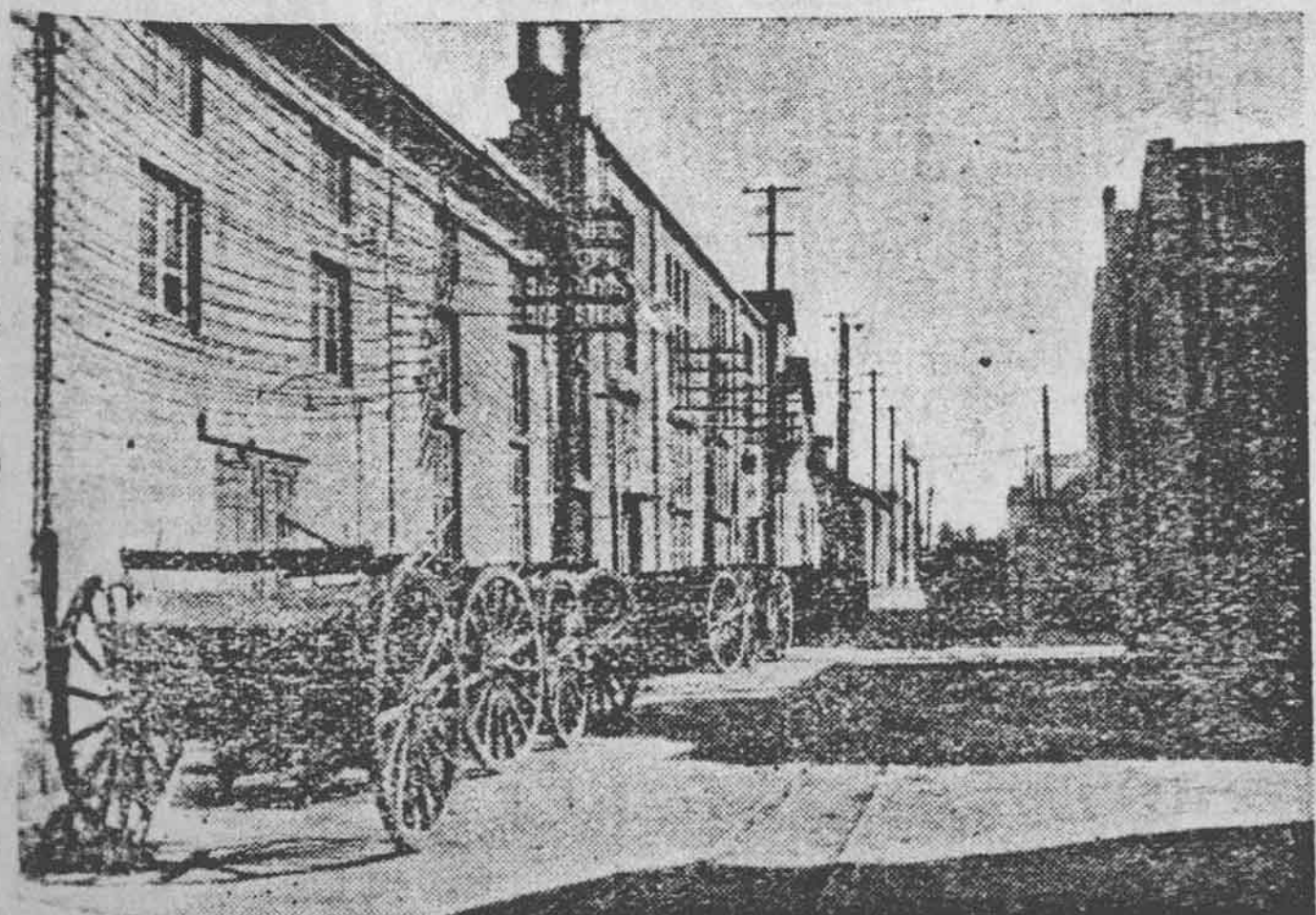
いや日けに秋野の空やすみとほりつひのたゝか
ひ開かれにけり
年まねくおごれる民らこらさまくこの一戦はさ
けがたみかも
天が下におこれる者のおのづからほろびに向ふ
さまはよく見よ
この夜をわがたのもしき將卒はいやはての國
に向ひつゝあらむ
寛城子、南嶺の激戦に
相つぎて死する兵士の大方がわれよりわかきこ
とも思はむ
出征者の親を
身はすでに君に捧げてありといへどひた思ふそ
の親のこゝろはや
つはものにその子召されしこの秋はかしきも乏
しく父母はまさむ

ワアッと砲聲が響かつた。
天の謀するところ、見よ門扉の一方は完全にけい、飛
んでしまつたではないか！
時將に四時を過ぎる四十分。

最後の突撃！

門扉は破壊された。
「突つ込めッ」
ワッ突撃！手榴弾又手榴弾！
火を吹く營舎。
戦闘氣力を失つた敵兵は我勝ちに兵營東北隅の空地
に殺倒した。時既に第三中隊は背後より攻め寄せて来
た。

お、人か畜か？敵る、敵る、打つ踏む！生き延びん
とする群の同志打ち！人の上に人又その上に人、人の
下に人又その下に人、群は群を踏み越した。そ
して群は群の足下に押し潰された！
東北隅の十堤下に累々たる屍は壓死せる同志打の機
だ。



時は午前五時を過ぐること僅か。北大營は完全に皇
軍の占領するところである。
大隊長は東北隅外の畑地に隊の集結を命じた。遙か
南より聞ゆる銃聲は第一中隊の無電攻撃であらう。
この時……見よ、高粱畑の遙か彼方から静々と昇り
来る血紅の太陽よ。
「萬歳!!!」
湧き来る熱涙！全隊は棍棒して泣いた。
勇士の功を高らかに示す日章旗が楊柳の梢にヒラヒ
ラと翻つてゐた。

エピソード

九月十九日早曉敵兵は掃蕩され、北大營は占領され
無電隊も攻落した。
U分隊長は第六二一團の攻撃まで従軍したが遂に無
念げに後方に送られ、目下遼陽の衛戍病院にて加療
中である。第六二〇團の攻撃中第三中隊長は左足に小
銃弾を受けて負傷した。
皇軍の尊き犠牲者死傷合せて二十四名。
(SHUBO記)